

成年
コミック

ANGEL COMICS
ACTION PIZAZZ BRAND

地下30mの 秘事に… め

Secret at 30 meters
underground

地下30mの
蜜月を…②

彩画堂

Presented by SAIGADO





C O N T E N T S

第10話	ネズミ	3
第11話	思惑	23
第12話	獵犬	43
第13話	師弟	63
第14話	満州	83
第15話	餌	103
第16話	侵攻	123
第17話	峡谷	143
最終話	月光	163

この地下道の
最深部へと
迷い込み

俺はその穴に
吸い込まれる
ように

一人の
少女に
出会った

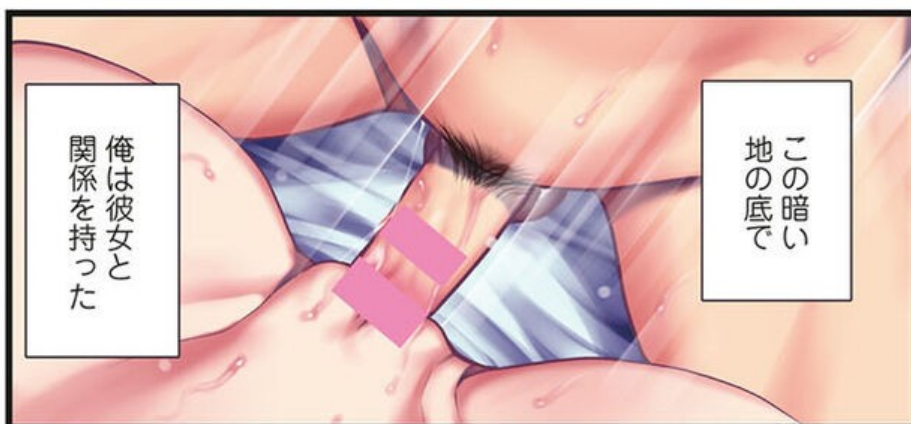
ようこそ
ほまれ
誉……

地下30mの
世界へ……

全ては……

俺の自宅に
突然現れた

奇妙な穴から
始まった……

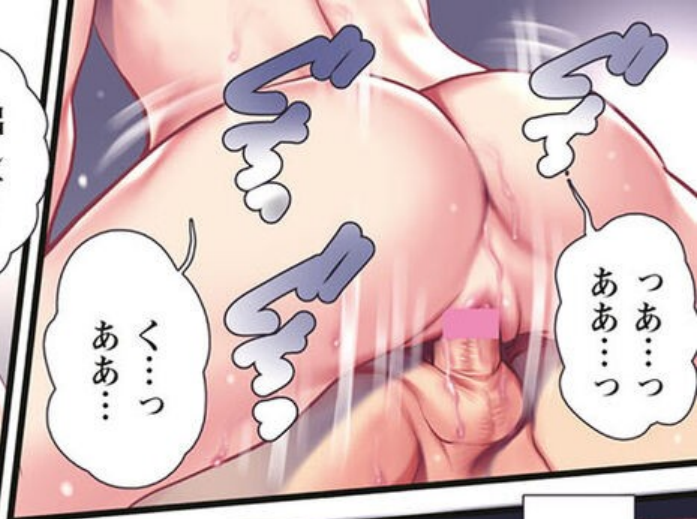






出して…
誉…

いっぱい…



っあ…っ
ああ…っ

く…っ
ああ…



俺は…

この深みから
出る事も
できず…

ただ…

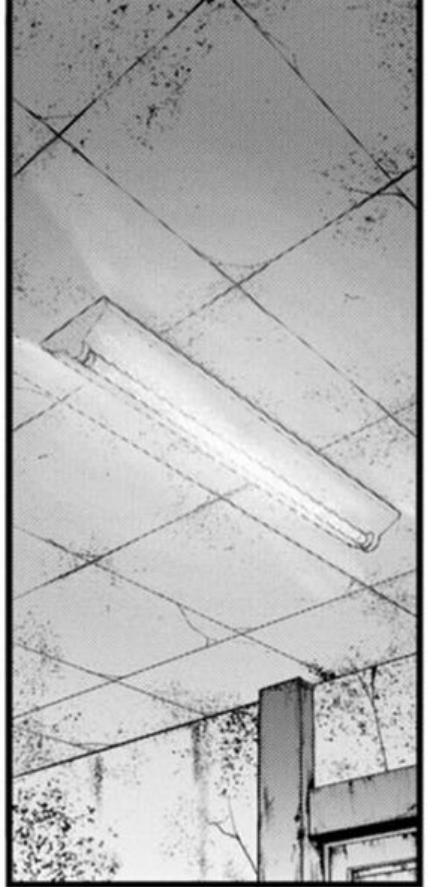


あああ
あああ

あ…!

そんな感覚に
襲われる…

イサカに
吸い込まれて
いくような…



イサカの
望みとは
いえ…

愛情が芽生えて
しまった以上…

こんな侮辱的な
行為をすべき
ではない…

だが
イサカを…

思うままに
汚辱したい
暗い欲望と

射精を待ち望む
期待の視線が…

俺の思考を
混濁させる

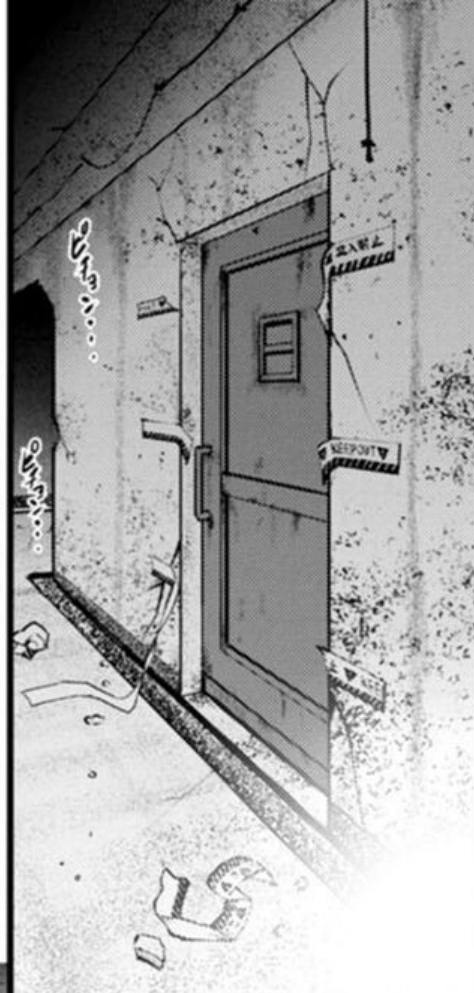
ああ…
……

俺は
なす術も
なく…

ただ情けない
声を上げ…

射精するしか
なかった…







……へ？

下を見る



ひっ…！

ひいひい
いいいいッ



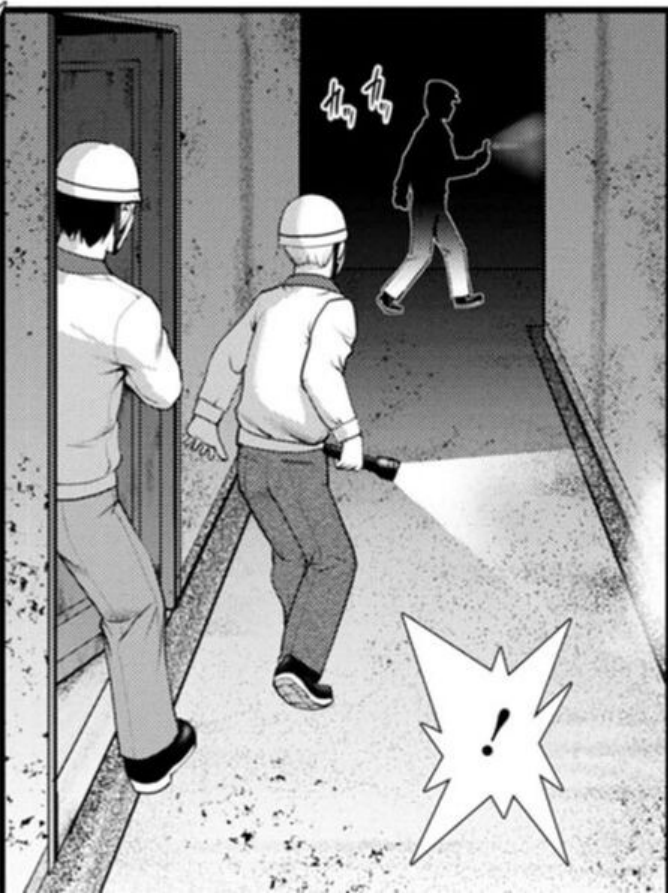
わからん

職員の間では
峽谷と呼んで
いる

あまりに
危険すぎて
調査できず

この下が
どうなってるかも
わからないまま
放置された場所だ

なっ…！
なんすか
これ！







じゃあ
誰が？

あんなッン…

わからない
けど…



…でも

あれは富嶽^{ふがく}の
手の者には
見えなかった



私たちがここに
隠れ住んで以来

都の職員以外の
人間は一度も
侵入していない



…つまり

俺がそいつに
つけられた…

………
そのようね…



すまなかった…

綾^{あや}の言うとおり
だった…

俺が甘かった
ばかりに…

いえ…まだ
正体がわから
ない以上…

あなたを殺すのは
後にするわ…



川西綾
かわにし あや

かつては名門
獅子ヶ園病院の
医師だったが



イサカに
出会う...

その運命を
狂わされて
しまった



地下30mから
続くこの朽ち
かけた病院で

イサカと共に
隠れ住んでいる

















ねえ
誉……

いつか私も
ここから……

出られるの
かな……？

ああ

出して
みせるさ

約束だ





ですが地下道の
内部は余りにも
広大で……

ふうむ……
よしわかった

特務部と
施設部から
20名動員しろ

娘の居場所
どころか
帰り道にも
迷う始末です

これは
ゼノ様の
命令だ

必ず
探し出し
確保しろ

おい
ほまれ
誉…

具合悪いなら
早退しろよ？

今は繁忙期じゃ
ないんだし

お前本当に
どうしたん
だよ？

はは…
なに…

ちよつと
寝不足な
だけさ…

仕事という日常と
地下道の非日常を
昼夜渡り歩く
生活は…

思ったよりも
大変だな…

なあ給料前だし
ここにしようぜ

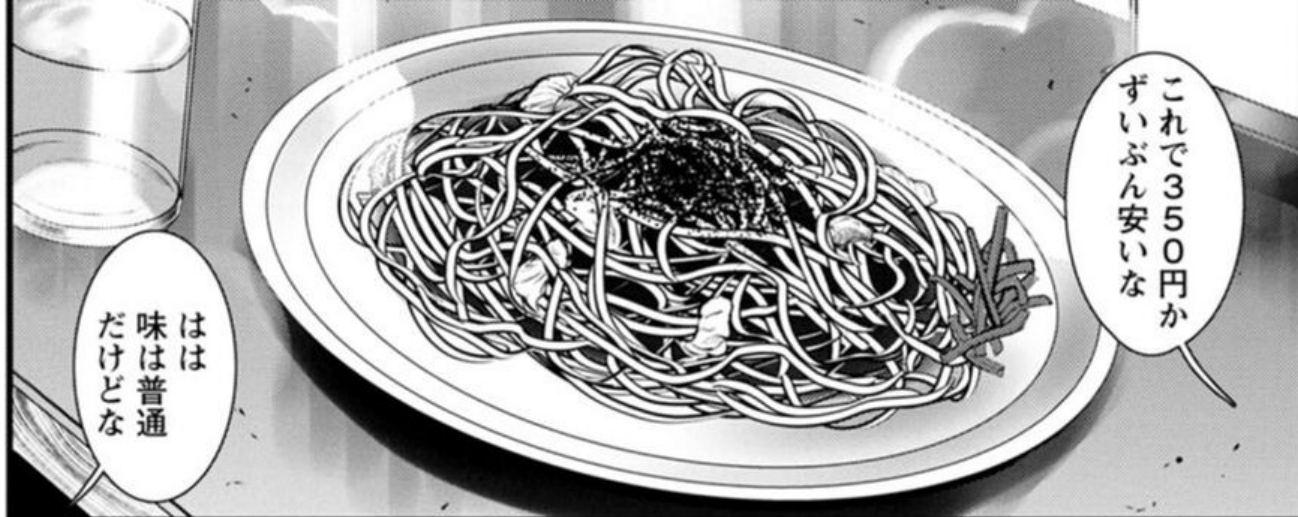
え？
飲み屋だろ
ここ

焼きそばも
いけるん
だぜ

へえ…

やきそば

名物やきそば





ああ…
関さん…

馬鹿な事を
しましたなあ

マスコミに
踊らされて
まったく…



……あ
あのう…

富嶽
幹事長…

ここは…
禁煙では…?



こっ困るじゃ
ないですか
富嶽さん

給与法案まで
取り下げるだ
なんて…



土壇場で
検察の任期延長に
反対したのは
お宅らでしょう?

この2つは
公務員法改正の
東ね法案

素直に賛成して
お互い得しようと
示し合わせたはず

これで民憲党
支持層である
公務員の給与
増額がパア

こううれんめい
公労連盟に
どう説明
するんです?

う…
う…

関さん確か
新聞記者出身
でしたね…？

政治家に向いて
ないんじゃない
ですか？

正義気取りで
無知な大衆を騙し
不安を煽動しては
下らない紙クズを
売りつける

そんなお気楽で
無責任な商売とは
違うんですよ

我々は国民に
飯を食わせるのが
使命なんです

それなのに
自分の身内も
満足に食わせ
られないとは…

お先
真つ暗ですな

では失礼

幹事長！
会談は？

あー…
関幹事長の
厳しいご指摘を
謙虚に受け止め

混乱の解決に
向け前進する
事で一致しま
した

イサカは
まだ見つか
らんのか？

申し訳
ありません

方々手を
尽くしている
のですが…

なに？

あの地下道は
真つ先に調査
させたはずだ

はい…
探せる範囲は
徹底的に調べ
ましたが…



なんて
ことだ…

また振り出しに
戻されるとは…

あの場所から
私がこの地位を
得るまでに…

様々なものを
犠牲にしてきた…



下げたくもない
頭を下げ

望まぬものを
受け入れ

大事なものを
捨て去ってまで

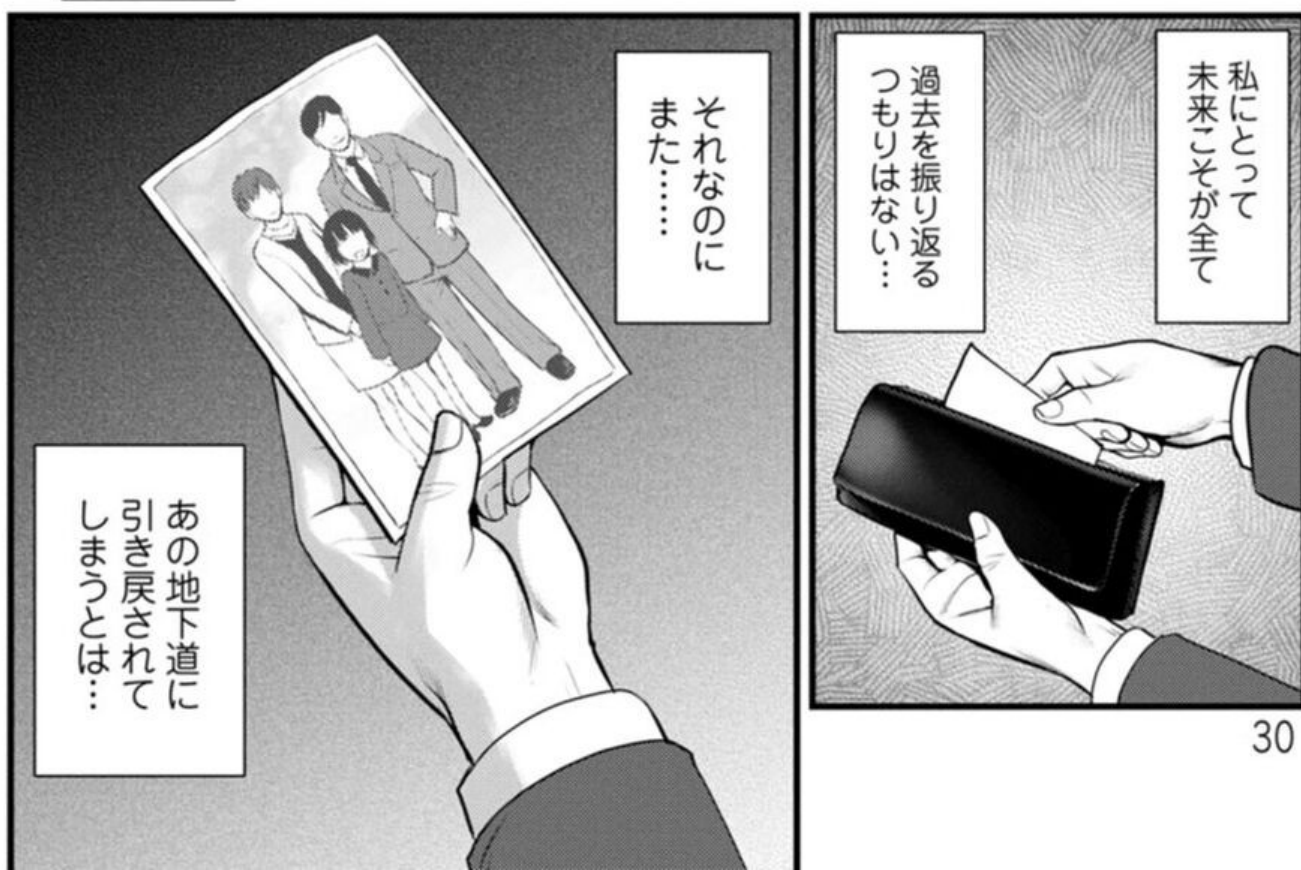
私は立身出世の
道を進んだ…



そうしてやっと
私は今の地位に
上り詰めた

だからこそ
あの娘から
秘密を聞き出し

この栄華を
不朽のものに
しなければな…



私にとって
未来こそが全て

過去を振り返る
つもりはない…

それなのに
また…

あの地下道に
引き戻されて
しまうとは…



誉…
疲れてる
でしょ？

そう…

俺は疲れて
いる…

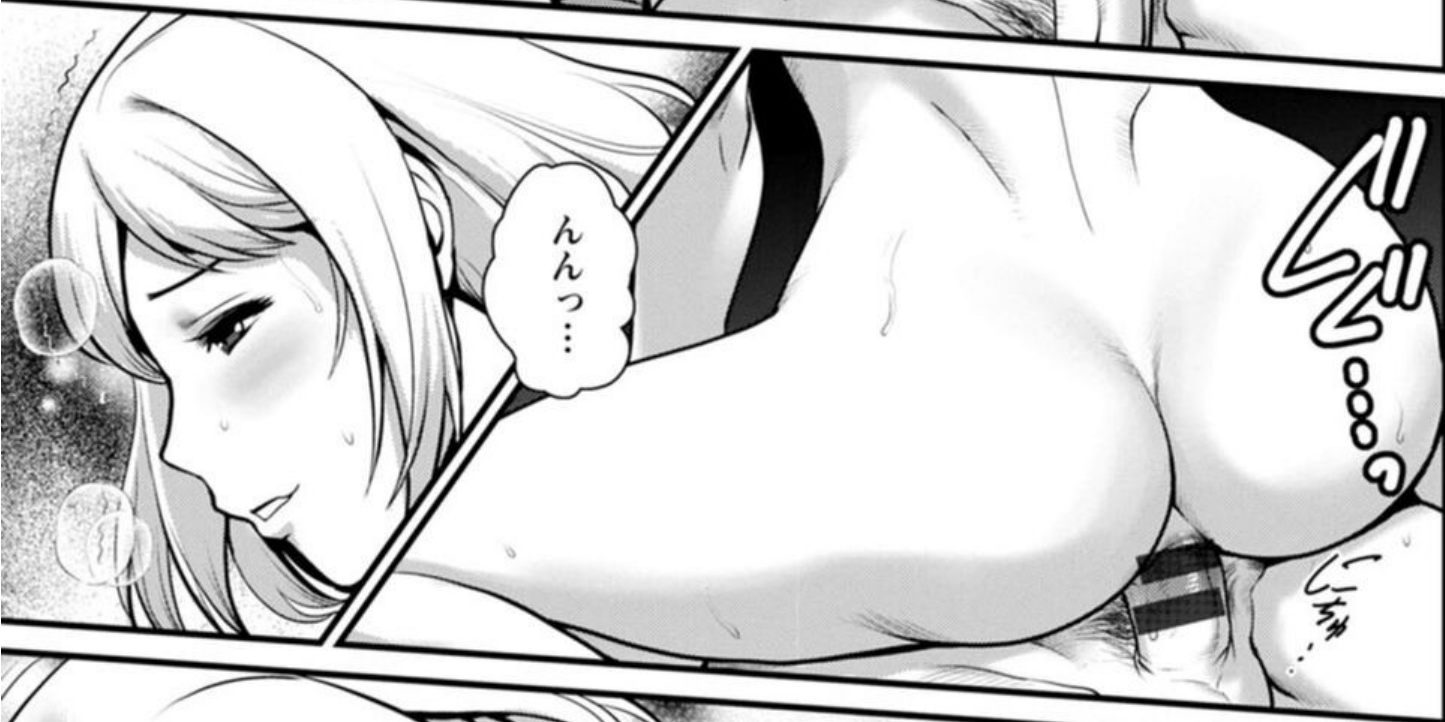
次は私が
上になるから

なのに…

男の欲望が
頭をもたげ…

射精せずには
いられなく
なる……

イサカを
目の前に
すると…





いついつ
イイクッ...
誉...ッ

ウツ!

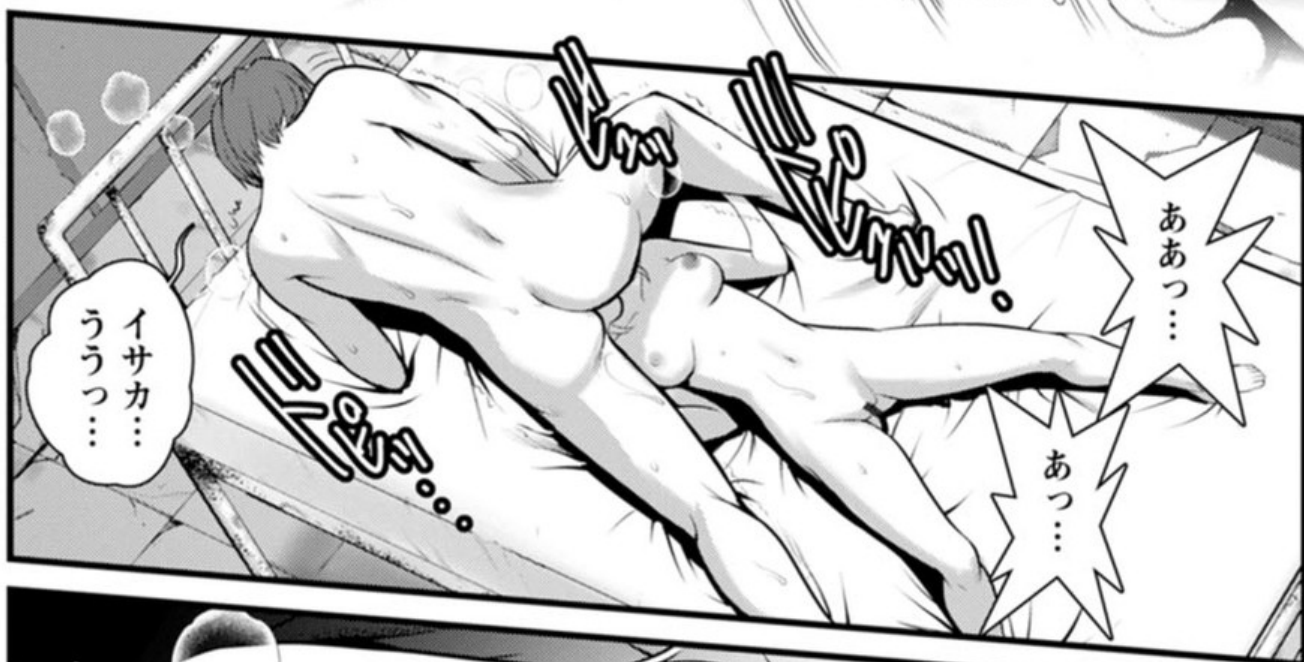
んんんん
んんんん
んんんん

は
は
は
は
は

ま...
またイク...
ああッ!

ああッ!
あっあっあっ

いつイクッ
イサカッ!
ああ...





お前は
飲み込みが
良い

法を得るのも
間近であろう

ああ……
ゼノ様……

どうぞ
我が胎内に
受法を……

おお……
お前の
肉叢は……

あつあつ
ありがとう
ございま……

真理に
近くある

あつあつあつ
師教様あああ
~~~~~



見えるか？

は…はいっ  
見えます！

光が  
見えますっ



あっあんっ  
いい！いいっ♡

ああっ  
師教様っ  
あっあっ！

ああ~~~~っ  
あ~~~~♡  
ああ~~~~っ！



ああ~~~~  
いい~~~~っ

いっいっ  
いっいっ  
おっ♡おっ

おおッ  
おほあく  
~~~~ッ


我が教団に
救いを求めた

この女は
借金癖のある
夫に苦悩し

だがな
女よ……

ここに救いなど
ありはしない

そのおかげで
我々も儲け
させて貰ってる
わけですから

まあまあ
高教さま

やれやれ……

師教様の
女好きにも
困ったもんだ



ふーむ…俺が
若い頃は女を
騙してソープに
沈めたもんだが

そろそろ
あの女も動画に
しますか？

美熟女系は
儲かりますよ

今はこういう
やり方で儲かる
んだな……

来月は部屋も
撮影機材も
空いてますし

わかった
師教様に
奏上する

[40歳熟女]クソニ
にゴム無し強制生射してわいらせ

ナマダシタロウ
views 32032
支援300/month

支援歓迎]お金がないので私たち
セックス見せます支援おねがいし

ななめ
Vivus 42300

ところで
師教様は例の
娘の捜索に
ご執心のよう
ですが…

きっと相当な
美人なんで
しょうねえ

さあな…
理由を話して
くれん

全く
面倒な
ことだ…

我が教団が
崇拜する
神の奇跡

「とわ
永遠の肉叢」

不滅を司る
聖なる肉塊…

それを得たものは
永久の生命を得る

ふっ…
そんなもの…

うちの師教の
でっち上げ
なのにな…



A班は
東方向

B班は
南方向を
探せ

わかりました

我々は
二手に分かれ
北と西だ

はい

目標は
娘の確保

身長は150前後
年齢は10代後半
から20代前半

非常に珍しい
ターコイズ色の
目をしている

白い肌で
肩までの
長髪だ

散開！

間違えれば
帰れなく
なるぞ

コンパスで
マッピング
しながら進め

ここは電波が
届かぬ地下の
迷宮だ

……あれは……

なんで
あいつらが
イサカを……？

宗教団体？

綾^{あや}
心当たりは
あるか？

…いえ…
保守派のドン
富嶽^{ふがく}の後援は
神道系と仏教系の
団体ばかりで
外国宗教は
聞いたことが
ないわ…

ああ…以前
街で見かけた
連中だが

西洋の魔術師の
ような格好を
している

私が富嶽に
捕らえられて
いた時

黒服の男が
たくさん
いた……

だからもし
私を探しに
来るなら

彼らが
来ると
思う…

…つまり

イサカの秘密を
知るものが…

もう一人
いる……？







むうっ！

おおっ……

お……

むう……

よき
肉叢で
ある……

御 勢

あっ……
あ……がっ……

はっ♡はっ♡
はっ♡はっ♡

うん……

あはっ……
あははは……

御 勢

はは…師教様は余程
あの女がお気に入り
らしいですね

動画撮影も
断られてしまい
ましたし…

まったく…

お体に障るから
程々にして欲しい
ものだ……

それにしても
高教様…

女つてのは
わからんもの
ですねえ…

一番見込みの
無さそうな
この子が…

わ…私は
おち○ぽが
だーいすきです

これから
たくさん
男の人に犯して
もらいます…

いやらしい
私を見てくだ
さい…

こんな撮影に
応じるんです
からねえ…







…やはり

はい
富嶽先生

例の地下道に
交代で捜索隊を
送り込んでいる
ようです

あの団体は
何か掴んだ
らしいな

ならば
我々が直接
動かずとも

捜索の輪は
徐々に縮まって
ゆくだろう

…しかし

公安が奴らを
監視している以上
都や警察の介入は
時間の問題だ

そこが
付け目だな

「恩師」の
ところだよ

週末の予定は
キャンセルだ

行く所が
できた

…は？
どちらに？

いい取引が
できそうだ





精液を
かけて…

ああ…
出して…

ほれ
誉の
濃厚な…

あ…
あ…
あ…

あッあ…
熱いッ…

おっお…
おっ…♡

くう…っ

おおっ…

うっ…
いいのか…
綾…っ

んんん…











…かわい
そう？

…かわい
そうな人…



イサカ…

最近
綾の様子が
おかしい…

なんだか…
生き急いで
いるようで



富嶽や
あの集団も
そう

あの人
だけじゃ
ない

みんな私の
秘密を知り
たがってる



あの人は
私の秘密を
解き明か
そうと

人生を
無駄にし
てしまっ



でも
私は…

他人に
教えられ
る秘密な
んて…

何も持っ
てないの…

……
何だっ
て？



はあっ…
はあっ…



はあ…

はあ…



どうして
俺はこうも…

君に惹かれて
しまうのか…



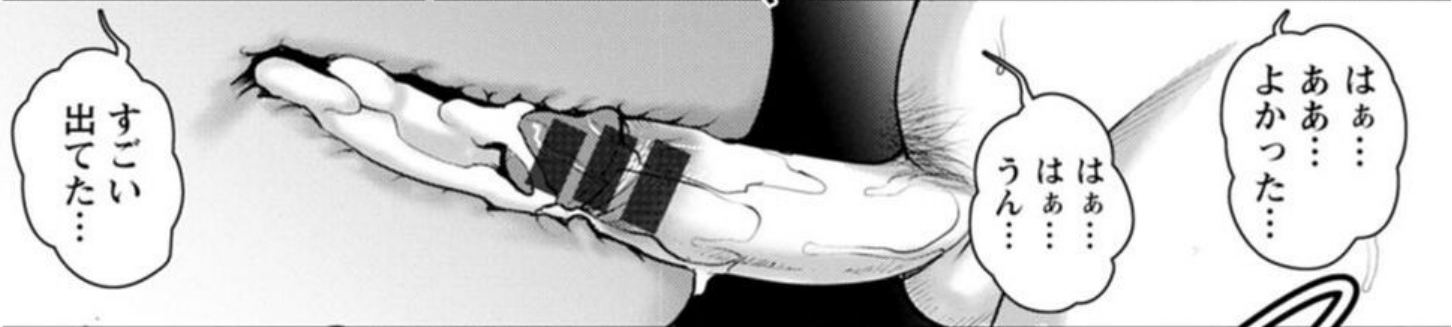
…不思議だ

何が？











彼女の好きな性癖だから？

そうとしか思えないが…

それよりも

まるでトルコ石のような…

水色の目をした美しいこの顔を…

俺の意のままに汚辱してしまいたい……

そんな男の支配欲に抗えず

俺は愛するイサカの顔を

思う存分
精液で汚す快楽に
酔いしれた…

まじ
惑うな

心身を
解放せよ

虚身の法を
授ける

では
これより

は…はい
ゼノさま…
ああ…

言う通りに
しま…す…

我が教団に
預けられた

この娘は
俗にいう
ひきこもりで

両親に半ば
捨てられる
ような形で

哀れな
ものだ…

しかし
皮肉なことに
この娘

両親と離れた
ことで

人の生気を
取り戻しつつ
あるのも事実

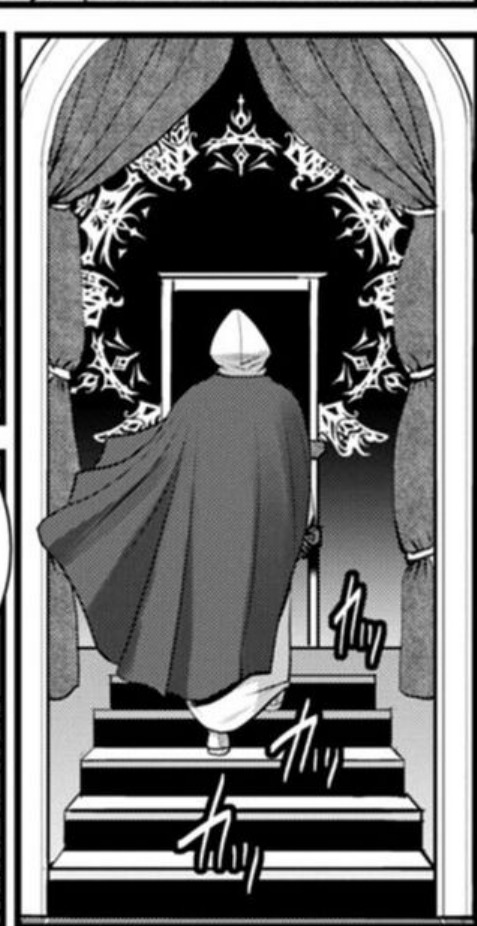
何が人の
救いになるか
わからぬものだ

こんな
インチキ宗教
であつてもな

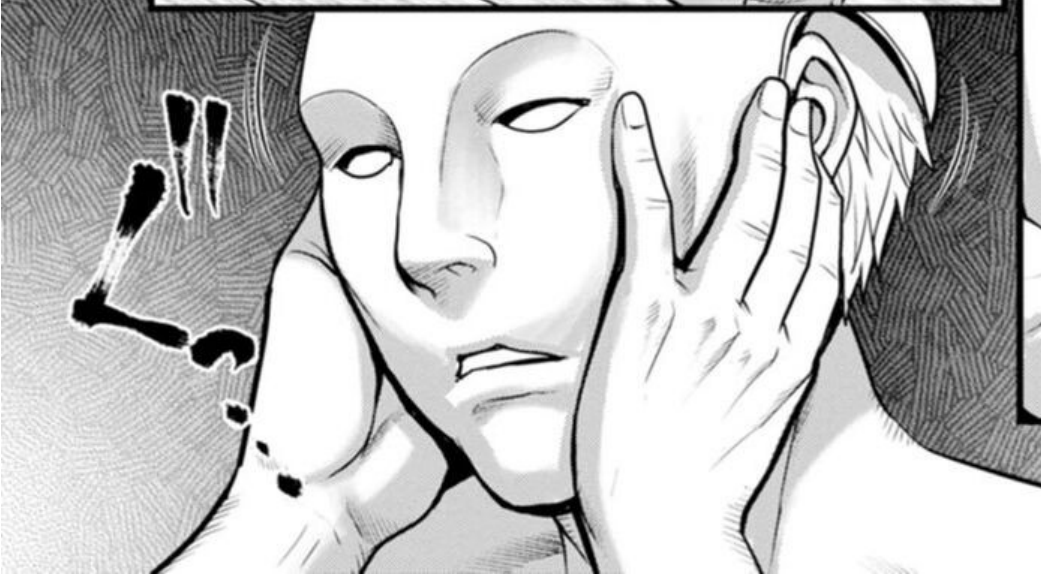
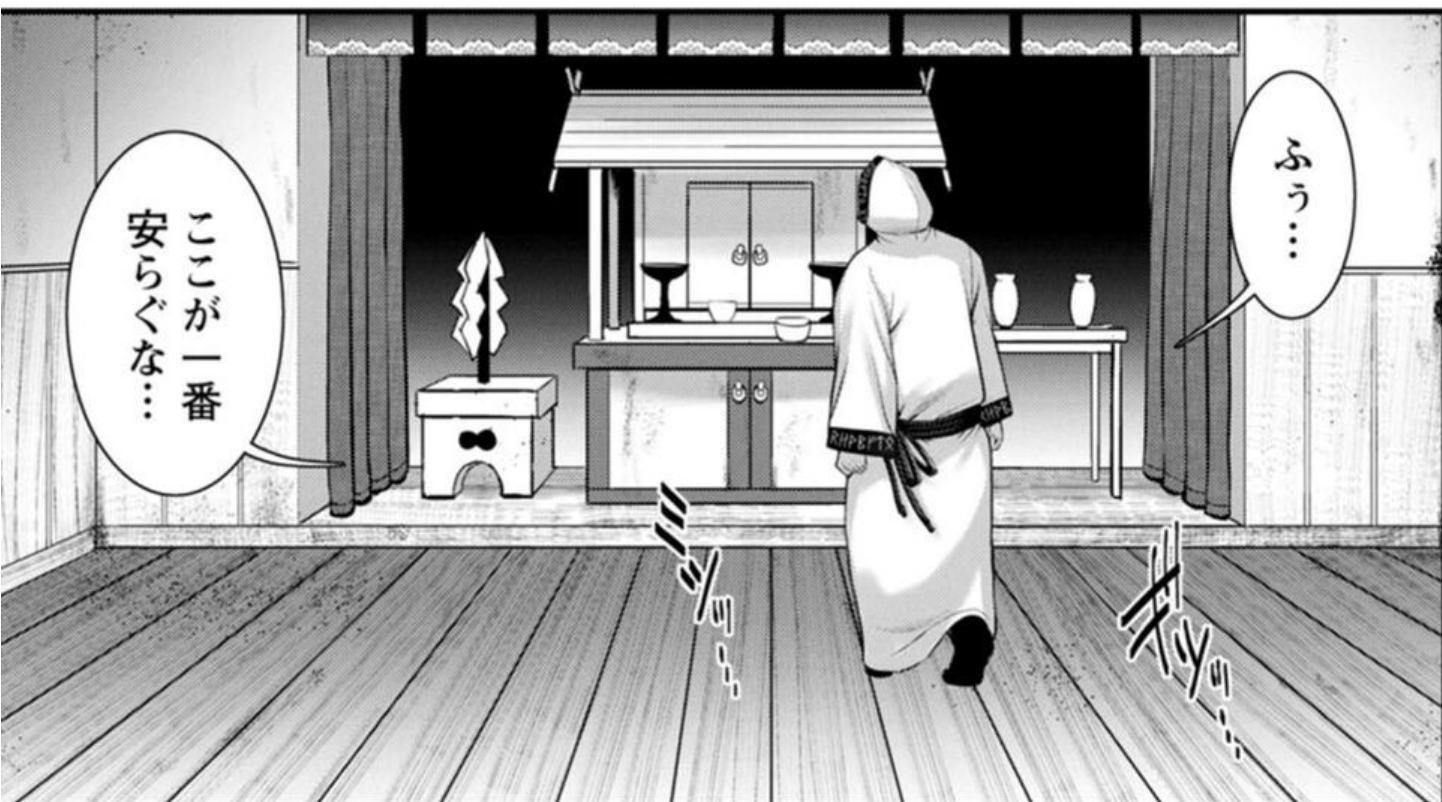
ただ抑圧的な
だけで愛して
くれぬ両親の
本心を

この娘は
見抜いていたの
かもしれぬ

あ…っ！
いっくっ！













今日はいい
話をもって
来たんですよ

まあまあ
先生



何しに
来た？

お前は破門
したはずだ



は…はい

誰も
入れるな

上村
人払い
しろ



おっ
昼酒とは
オツですな

御相伴して
よろしい
ですか？



しかし…
私がいた頃の

神道風の
インチキ宗教
から…

ずいぶん
変わりました
なあー

今出て行った
上村が捲えた
ものよ

お前を
破門した
あとにな



ほおー
あの上村くん
がねえー

ト
ト
ト...

お前がいた
30年前は無口で
真面目な若者に
過ぎなかったが

あいつはあれで
帝国大学卒で
知恵が働く...



15年前
信者数が減り
続けた故

あいつの発案で
莫迦げた西洋の
魔術風に変えた
のだ...

確かにその功で
信者は10倍に増え
教団も大いに
潤っておる...



...でお前が
その忌々しい
面を見せたとい
うことは...

また誰か
「消せ」という
話か？



だがそれ以降
教団の主導権は
徐々に上村に
握られていき...

今の僕は上村の
筋書き通りに
預言者の演技を
するだけの

哀れな
操り人形よ...

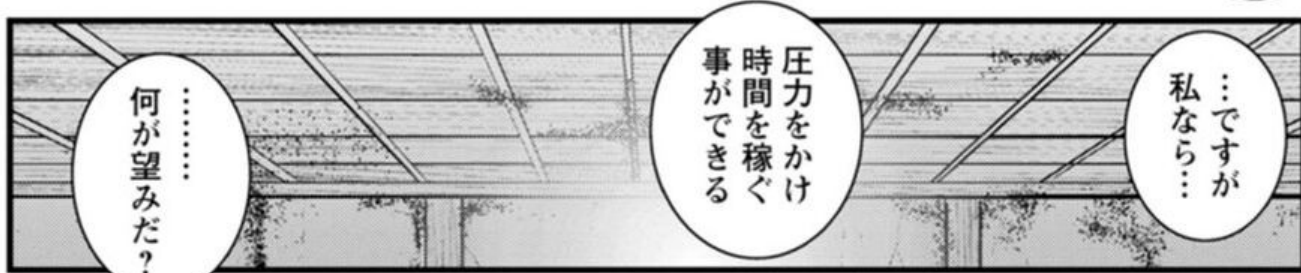


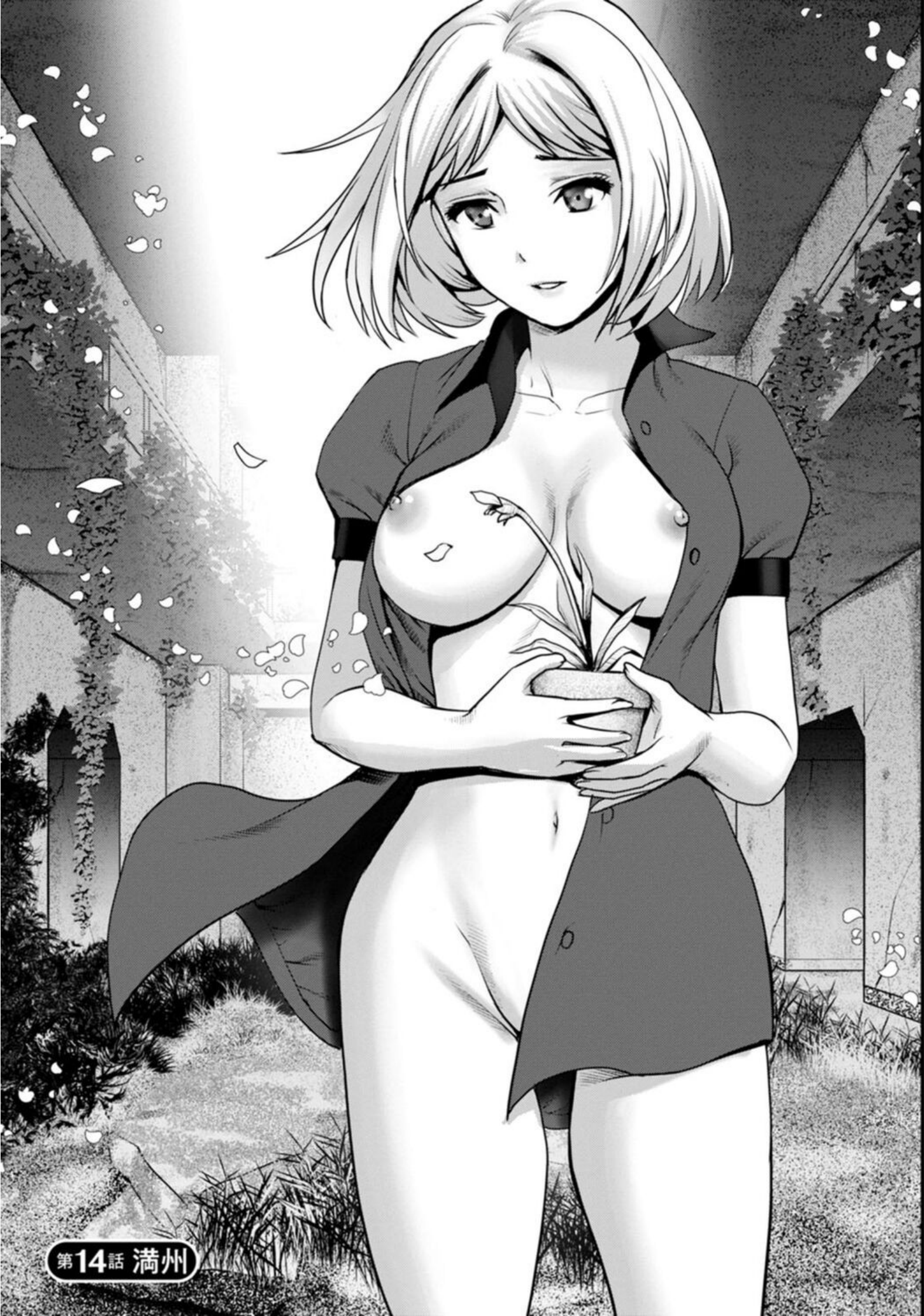
不都合な裁判の
原告や弁護士や
記者どもを
拉致して山奥に
埋めたり...

ずいぶんと
非道な真似を
やらされた
ものよ...











……
何の話だ？

先生は信じて
なかったはず
でしょう？

永遠の肉叢の
存在なんて

戦争中上官から
聞いただけの

ユーラシア大陸の
莫迦げた怪談に
過ぎないよね……



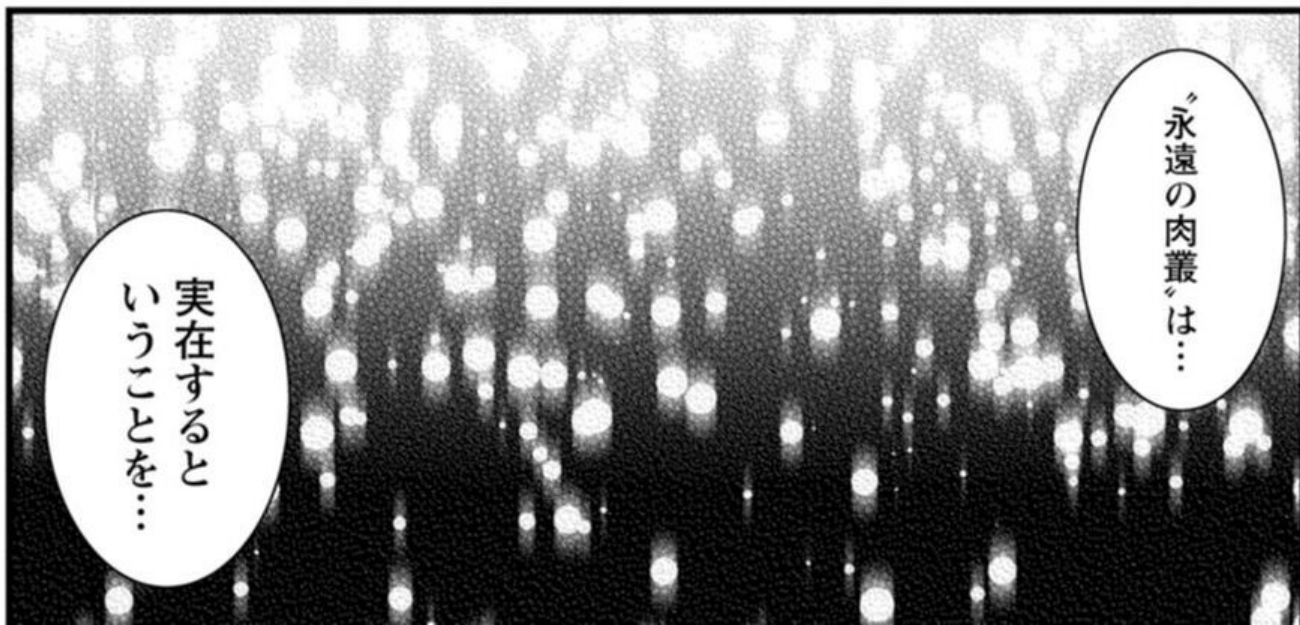
なのにどうして
急に目の色を
変えて……

あの女を
探すのです？



やっぱり
あなたは

心のどこかで
信じていた
のでしょうか？



永遠の肉叢は……

実在すると
いうことを……







ははは
そのまさか
さあ

えっ！

ま…
まさか



だがそんなことは
どうでもよかった

ただ初めての
女体を目前に
して…

忘我した…



その店で
初めて女を
買った

ロシア人と
名乗っていたが
自称だろう

年増で安く
新兵の自分でも
なんとか払えた



おいで
坊や

はい…
はい…



豊かで
大きな
乳房…

日本女とは
比較にすら
ならない



圧倒的な
厚みを持つ
体躯に

我身の貧弱さが
恥ずかしく
なったほどだ…



ふうう…
なんて
柔らかい…

中尉が
馴染みの女に
会っている間

〃一戦交えて来い〃
とこの女を
充てがわれた







はあつ
はあつ
はあつ...

い...お
おお...

い...
い...
い...

女は脚を
がっちり
絡ませ...

最後まで
離そうと
しなかった

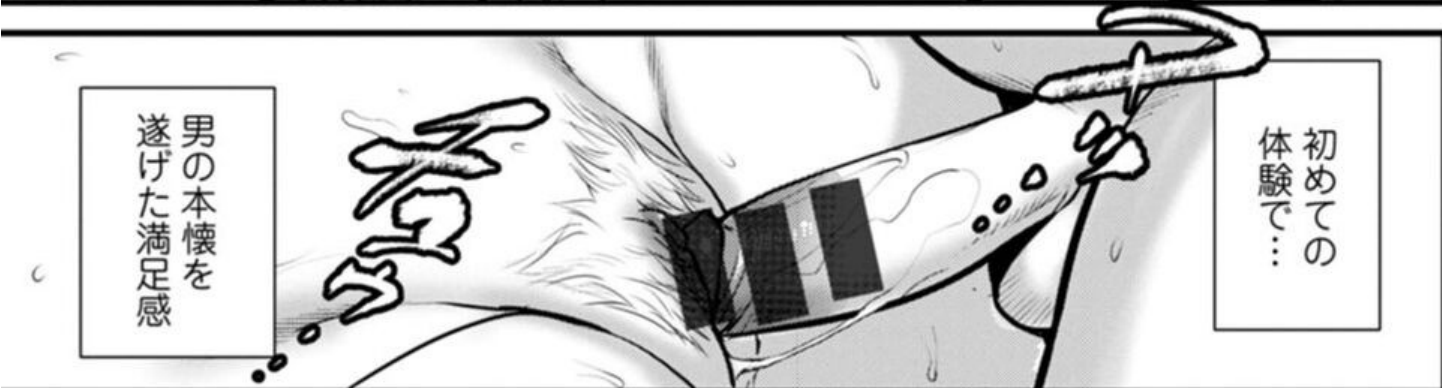
うん...
うん...
うん...

ああ...
くる...
う...

い...
い...
い...

う...
う...
う...

う...
う...
う...



女もその気になつたのか

おお…
おお…
つ

続けて何度も
行為に応じて
くれた…

はっはっ
はっはっ…

大柄な体に
しがみつく
ように

はあ…
はあ…
はあ…

夢中になつて
腰を振つた

Vpve Vpve



ああ…
生きて
いるとは

なんと
素晴らしい
ことか…

そんな生の
歓びを知ると
同時に

戦争と
死への恐怖が
吹き出した



ああ…
こんなこと
なら…

兵隊に
なんて…

なるんじゃ
なかった…



はは…麗香が
気になるか？

あの子は
この店の
一番だから

お前の
給料じゃ
無理だぞ

言葉にできぬ
その美しさに
目を奪われ

その姿は
網膜に
焼き付いた

不透明で
ありながら

美しく輝く
水色の目

アジア人とも
西洋人とも
つかぬ顔立ち

この大陸は
未知にあふれて
いる…

もっと
知りたい

さ一杯
ひっかけて
宿に戻るぞ

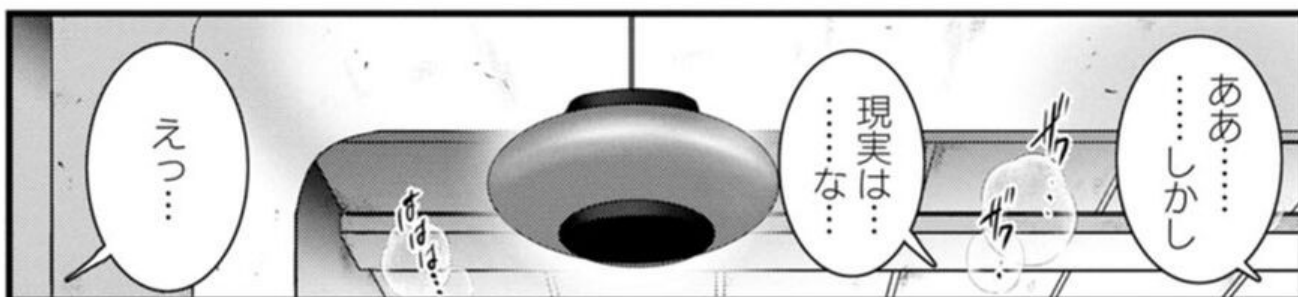
明後日までに
齊々哈爾に
戻らなきゃな

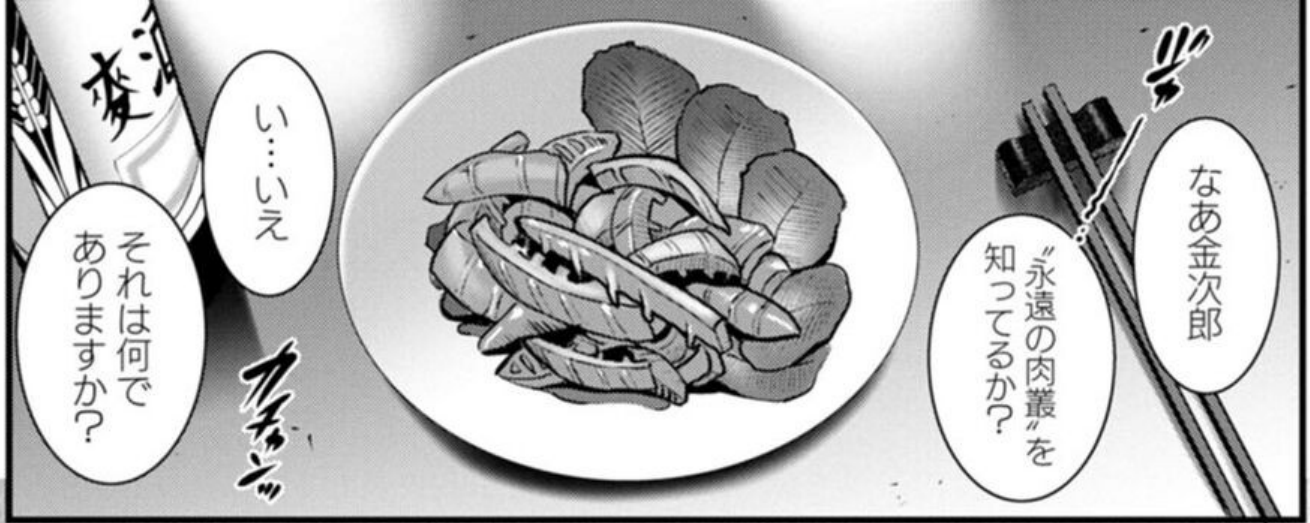
は…はい

そんな好奇心に
心が沸き立つと
同時に…

不自由な兵隊に
なってしまった
己が恨めしく
思えてきた…









そのおかげで
私は…

秘密を手にする
寸前でしたかね

秘密を手にして
なんとする…？

だが
井出光先生は
そう思ってい
なかった

だから徹底的に
調べていました



決まってい
るでしょう

私は不死の
存在となり

影からこの国を
支配し続けるの
ですよ

先生と
一緒にね

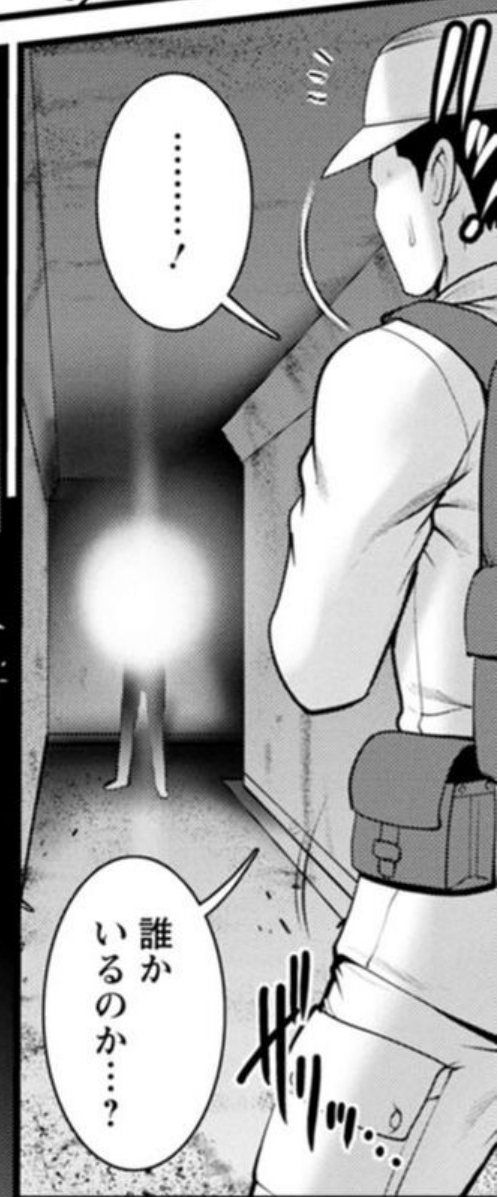


都と警察は
私がなんとか
します

先生は
これまで通り
地下の探索を…

…是非もない…





やれやれ…

綾のお使いも
楽しいな
……

イサカ…
綾と地下道に
住んでから

ずっとこんな
生活をして
いたのか？

うん…
私は外に
出られない
から……

いつもあの人が
買い物に行って
いた……

例えば…
その左奥

3つ目の
通路から
左のドア

長い階段を
4本ほど
上がると

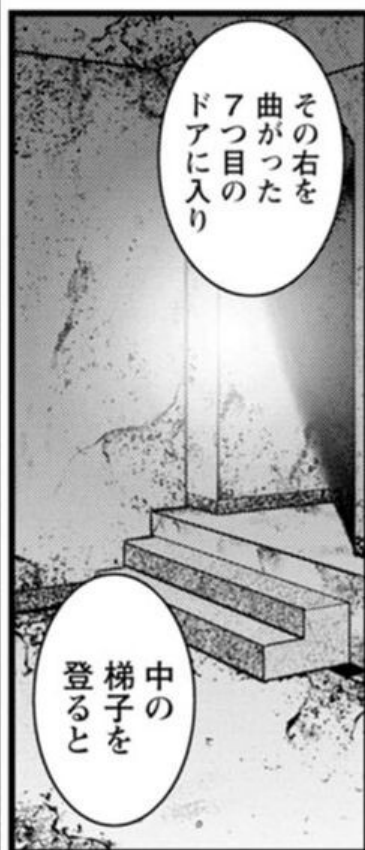
ま俺も
お使いの
おかげか…

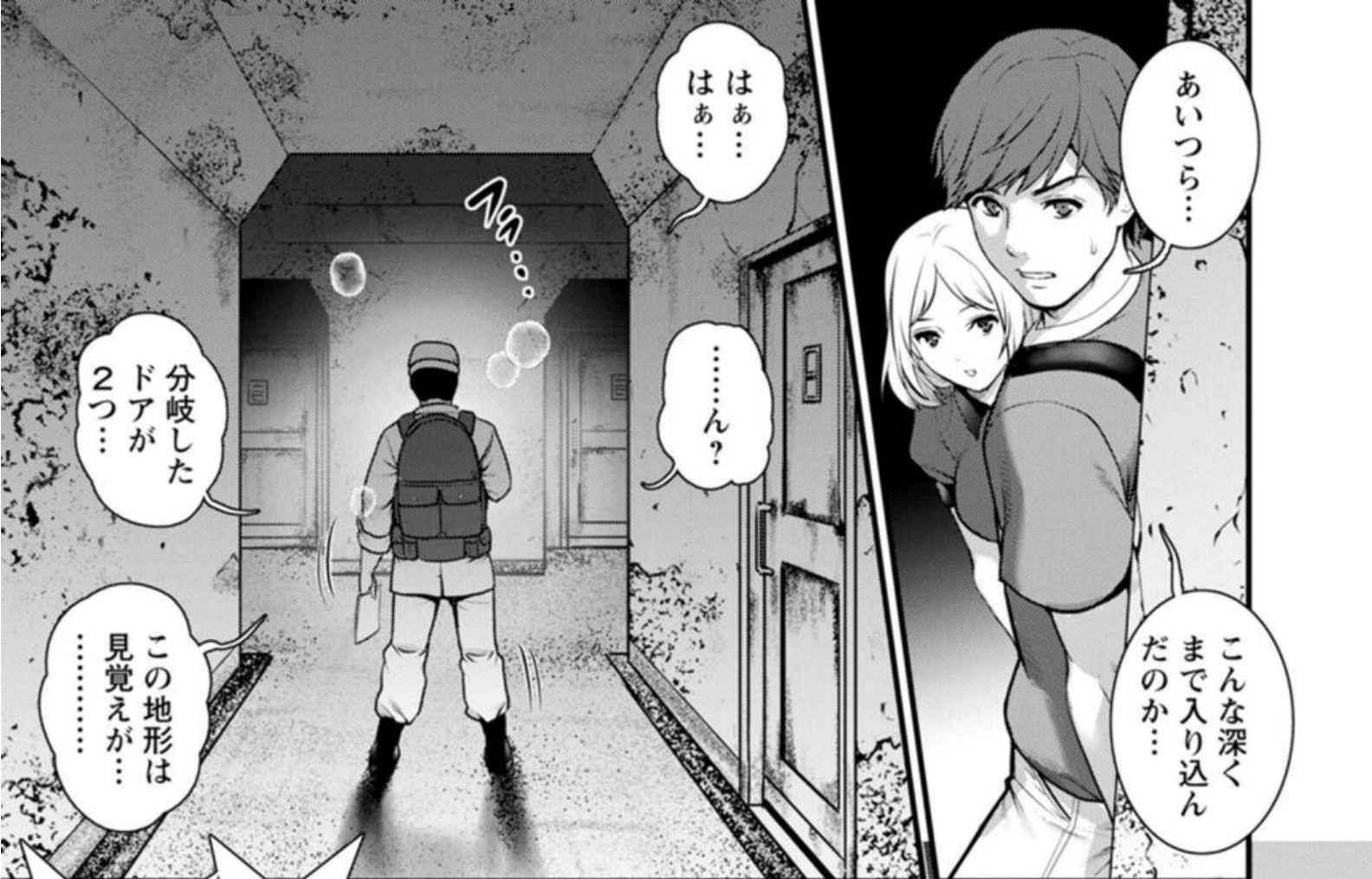
だいぶこの
地下道に詳しく
なったよ

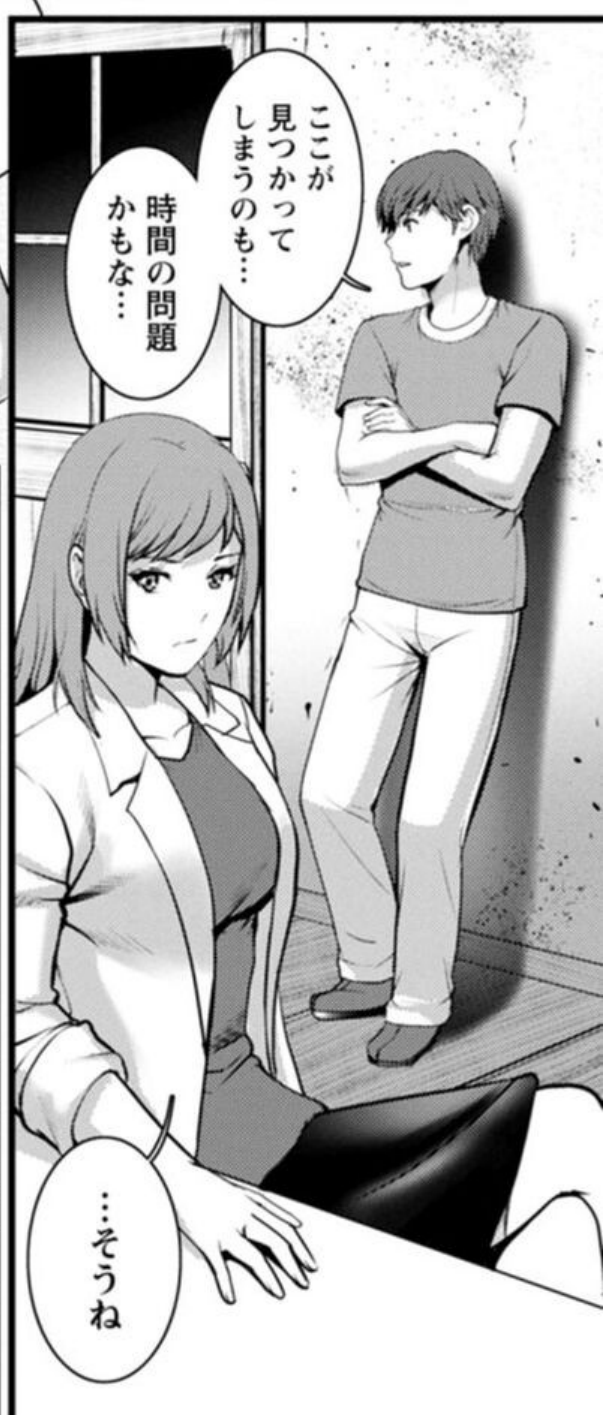
とんでもない
ボロ屋に出る

場所は
わからない

鉄条網で
封鎖されて
いたからな











は…
ははは…

そんな
バカな…

吸血鬼じゃ
あるまいし…

医者が
冗談を
いうのか？

だから
この子の体を
徹底的に調べた

遺伝子から
内臓機能から
何から…

この子の秘密を
解き明かした
かった…

でも！

何も
わからな
かった！

普通の人間と
何の差異も
なかった！

この子の異常に
気づいたのは…

私が人生を
投げ打ってきた
医学って…

いったい
なんだったの…

…最初に

まだ病院に
いる頃だった…



それから
知っての通り
病院を辞め…

イサカは…

生物の体液
だけを摂取
できる…

血液…
母乳…

それに…

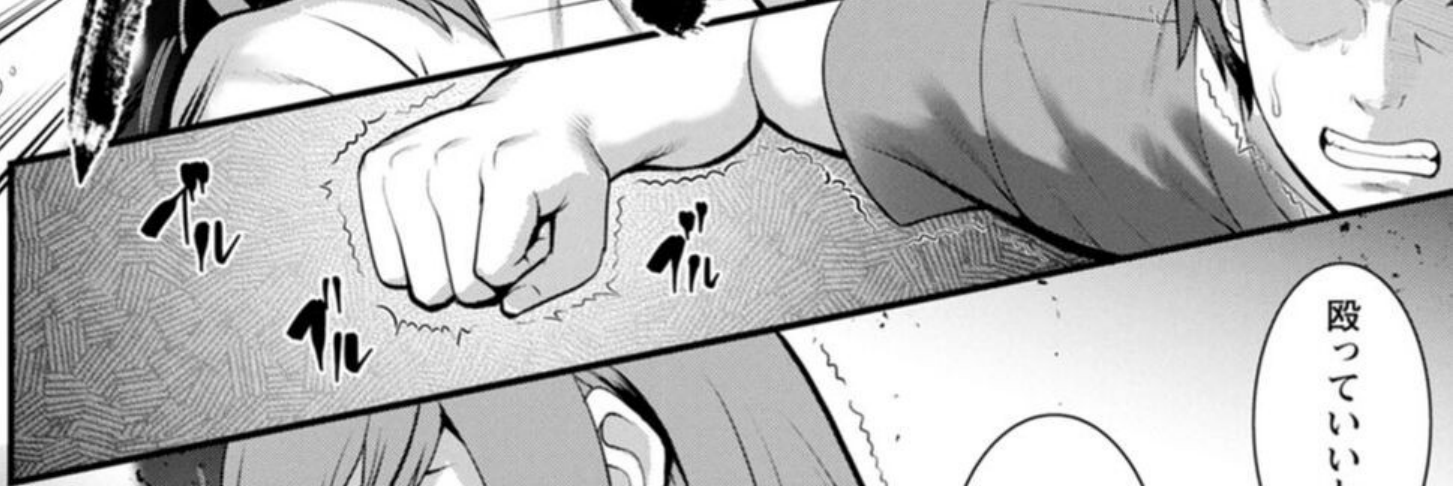
……ま

まさか……

そう…
あなたは…

私があの子に
投げ与えた…

餌
なのよ……



殴っていいわ…

私は
あなたに…

それだけの事を
したのだから…

…なんで…

言ってくれ
なかったんだ…



仕事に
人生を
捧げ…

そんな
私の前に…

あなたが
現れた

んっ…
んふっ…

女で
ある事を
忘れていた

はあ…
はあ…

ああ…
もつと…

ああっあっ
あっあっ…

ああ…っ
イイッ
いっ
いっあっ

殺さなきゃ

びびびび

何度も
何度も…

体を
合わせながら

いつか
殺さなきゃ
と…

ずっと
思っ
てた…



できなかった…

だけど…



あなたは
私に…

あッあッ
すこいッ
すこッ…

女の悦びを
与えてくれた
から…

いいわっ
いいッ…
っ



殺そうと
していた
くせに…

なんて
自分勝手
なの…

おっおっ
おっあ…っ

突いてえ
突いてえ…

綾……

言いたく
ないなら……

言わなくても
いいさ……

ありがとう……

でも……

言うわ……

私は……

あなたを……

愛して
しまった
から……

あなたの
体と…

その
優しさに
触れて…

私は
変わった

ああ…
出すぞ…っ
ううっ…

これで…

出してっ…
あっ中につ…

ああ来てえ
来てえ
誉…っ

私は
もう…

綾あつ！



~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

ありがとう...

誉...

~~~~~



ごめんなさい…

……  
さびしかった  
んだな……

綾……

うっ……

ううっ……

ううっ……

ぐすっ……



結構…

よくぞ  
務めを  
果たした



その地図が  
おそらく  
地下道の  
最深部かと

下に向かう  
ルートが  
ありません  
でしたので



与えられた  
時間は  
わずかだ…

我々も  
出るぞ  
上村

は…  
はっ！



ゼノ様  
御自らの  
ご出座だ！

続け！

遅れるな！



総力戦だ！

少数の警備と  
内務班を残して  
全員地下道へ！



動き出した  
ようです

そうか

公園の入り口  
から地下道へ  
侵入している  
ようです

だろうな

あの地下道に  
出入りできる  
箇所は少ない

連中を  
出し抜くには  
いい機会だ

ああ  
ここがいい

止めてくれ

……あの

ん？  
ああ…

ここは？

ここはな…

かつて  
暮らして  
いた…

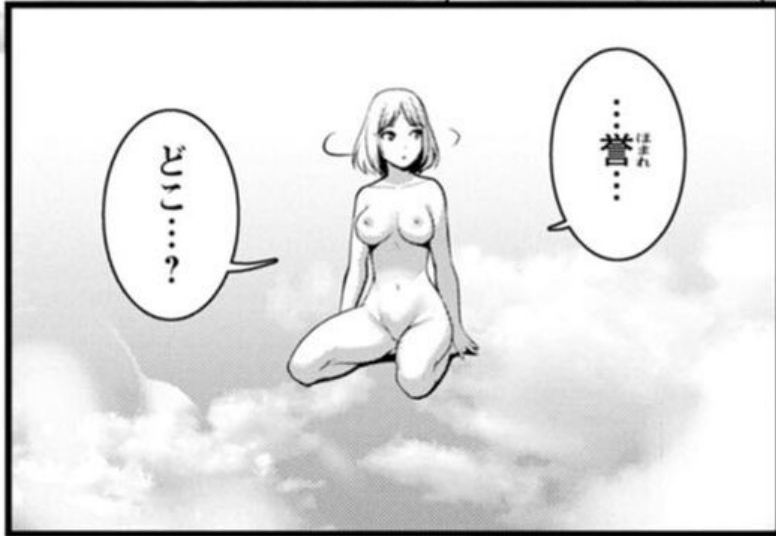
懐かしい  
我が家だよ…











あなたが  
いれば

私は生きて  
ゆける…

命を繋いで  
もらえる…

でも…

私はずっと  
……

あなたを  
欺いて  
いた…

あなたに  
だけは…

去ってほしく  
なかったから…











あなたの  
精液を

必要と  
していた



あぁっん  
あ...っあっ

私はただ  
生きるため...

あっあっ  
あっ...



あっ...  
感じる...

最初は  
そうだった

それ...  
っあッ...

でも...



私の  
居場所は

あなたの  
中にこそ  
あると

ようやく  
気づいた...



もう...

それだけじゃ  
ない...

あてもなく  
漂流し続ける  
私の人生に…

あなたは  
まるで

輝く灯台の  
ような存在…

あなたは

私の生きる  
希望…

連れて行って

誉…

どこまでも…

私を…







幸せかい？

ええ…

幸せ……

あのね…

誉……

は、は、

は、は、

ずっと長生き  
してしまうかも  
しれない…

私は  
あなた  
よりも…

アッ

アッ



例え…

そうだと  
しても…

あ…あつ  
い…いく…

私は…

あなたの  
命が尽きる  
その日まで

あつ！  
あつ！  
あつ！

あつ！

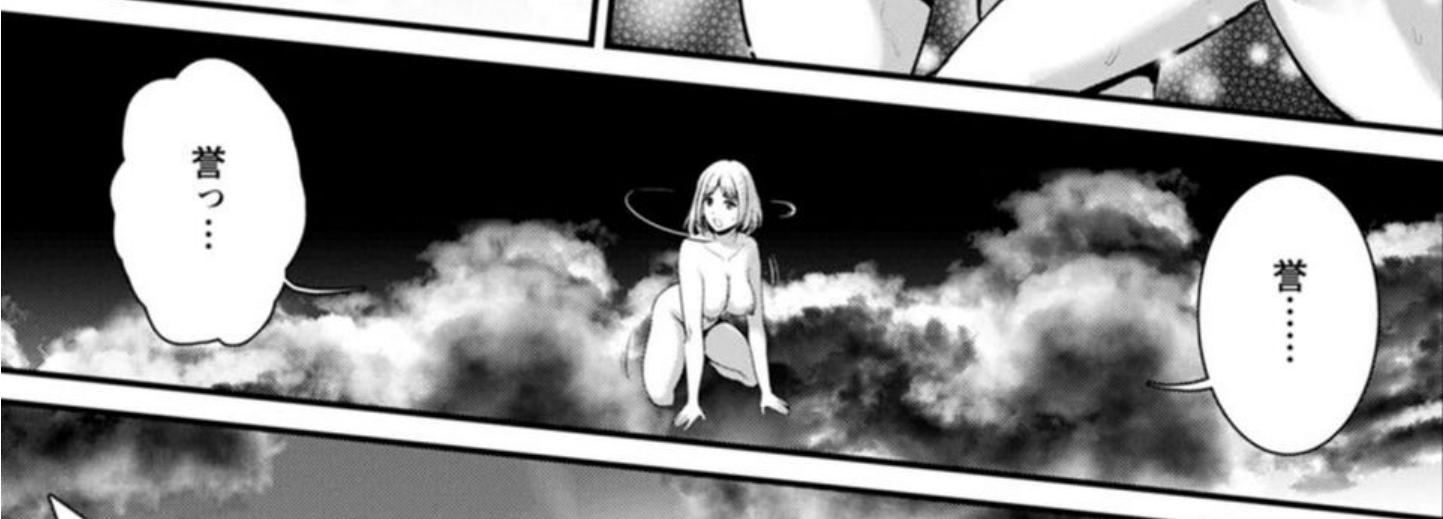
あつ！  
あつ！  
あつ！

ずっと  
添い遂げる

はあ…

はあ…

ほま…  
れ…





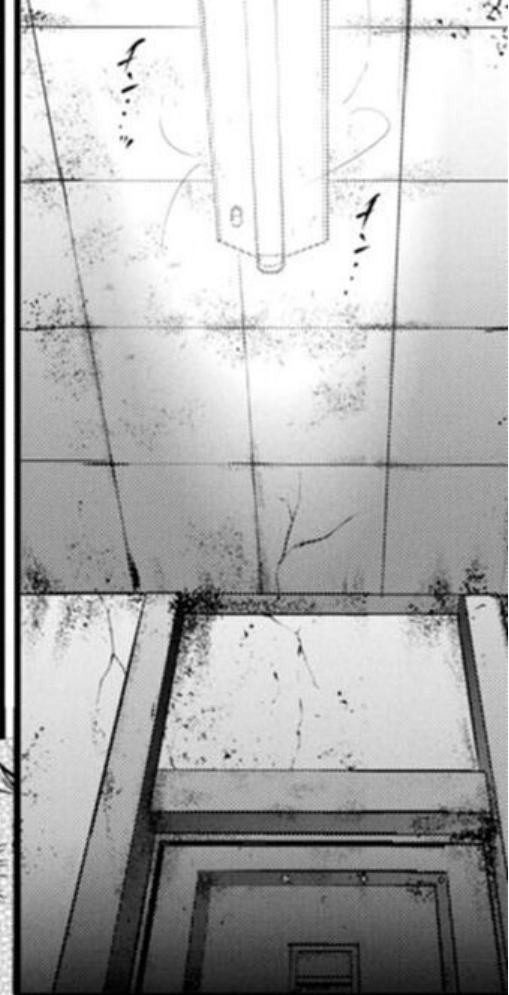


.....

気がついた  
か……？



……夢？



……ごめん  
なさい……

私の  
せいで……

いいんだ……  
君の秘密を  
取って聞かな  
かったのは

俺の方  
だから……



あのね……

誉……



誉……

どうやら  
ここはもう  
ダメらしい……

黒服の奴らが  
自宅まで……



遠い昔…

私の一族は

黒海の沿岸に  
住んでいた



家畜を育てて  
肉を売り

残った血を飲み  
ひっそりと  
暮らしていた



でも…

何年経っても  
歳を取らず

血を飲む  
姿を目撃  
されると…

近隣の住民は  
訝しむようにな  
った…



私の一族は  
不老不死の  
怪物と決め  
つけられ…

そして…



その血肉を  
貪ることで…

不老不死を  
得られる

そんな噂を  
盲信した人々に  
襲われるようにな  
った



それが  
悪い噂に  
変わり

やがて尾鰭<sup>おひれ</sup>が  
つき始める



それが  
永遠の肉叢  
という伝説の  
始まり…

私たちは  
不老不死  
じゃない  
ただ血を飲み  
歳をとるのが  
遅いだけの  
人間…

だけど  
バンピルと  
罵られ…

時に  
ウブイリと  
恐れられ…

どこにも一族の  
居場所 wasn't

一族はその度に  
住む場所を追われ

逃げて…

逃げて…

また  
逃げて…

長い年月で  
一族が数人に  
減った頃  
大陸の東端に  
辿り着き…

でも私に  
一族の性質が  
受け継がれ…

それがまた  
露見すると

一族はまた  
襲われて  
全滅…

そこで母と  
現地人との間に  
私は生まれた

騎馬民族の父は  
優秀な狩人  
だった

残った私を  
逃がそうとした  
父までも…

そうして  
生き延びた  
私は……

生きるために  
娼館で男の精を  
得るしかなかった

そして  
お客だった  
関東軍の  
伊坂中尉に

戦後日本に  
連れられて  
一緒に暮らし  
始めたけど

間もなく  
誰かに殺されて  
しまった……

私がイサカと  
いう日本名を  
名乗るのは……

その人の  
恩を忘れたく  
なかったから

……娼館で  
働いている  
頃ね……

中庭に  
桃の木が  
あったの

私はモノを  
食べられない  
から

どんな味が  
するんだろう  
って

ずっと  
眺めて  
いた

ねえ  
誉

桃  
って

あんな味が  
するんだね  
……





……違う……

違うんだ……

あれは……

人工の……

偽物の……

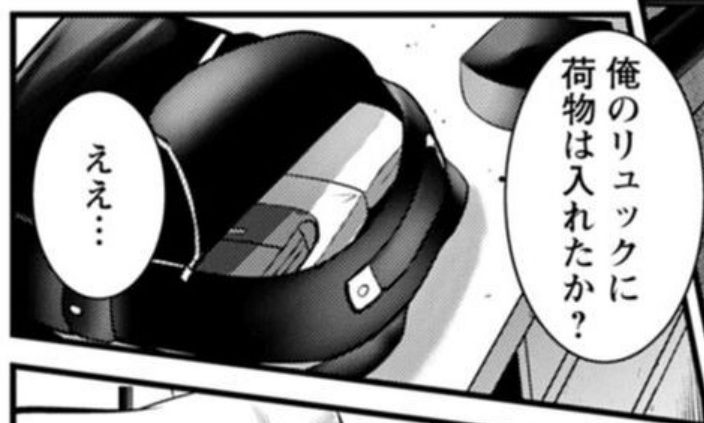
桃なんだ……

……誓

逃げよう

俺と一緒に  
生き延びる  
んだ

イサカ



元元……

俺のリュックに  
荷物を入れたか？



そうか……

大したものはないけど：



この穴蔵とも  
お別れだな……

綾あや  
・  
・  
・

じゃあ……

始めるか

ええ……

いいわ……  
 誉……



はあ…

んはあっ…

もし脱出に  
失敗すれば…

んっ…

んん…っ

きっと  
私たちは  
殺される

…だろうな

その前に  
あなたの

ああ  
感じ合おう

暖かさを  
もう一度  
感じておき  
たいの…

ALX 2009

ALX 2009

この先が  
最深部だ！

探せ！

ええ…  
何だか…

はあ…  
はあ…

濡れているな  
綾……

今日は体が  
熱いの…







お…おっ  
おっおっ…

おお…  
誉…

綾…  
脚抱えて

はあ…  
はあ…

おおっ！  
あっ！

あっ！  
すごいっ

あ~~~~  
あ~~~~

もっとな…  
いいいい





アッアッ

アッアッ

はあはあ  
はああつ  
綾っ…

ううんっ！  
うううっ

うううっ  
うううっ

あ…

い…  
く…  
…

まだだっ  
ううっ…

気をやるな  
…綾っ

まだだ…っ  
まだ…

ああ〜  
ダメダメ…

いつちやうっ  
いついつ

い…  
く…  
…

ガッ  
ガッ

ガッ  
ガッ







うっ!

ああ……

ああ……

出っ……  
出っ……  
ああ……

はあ……  
はあ……

はあ……  
はあ……

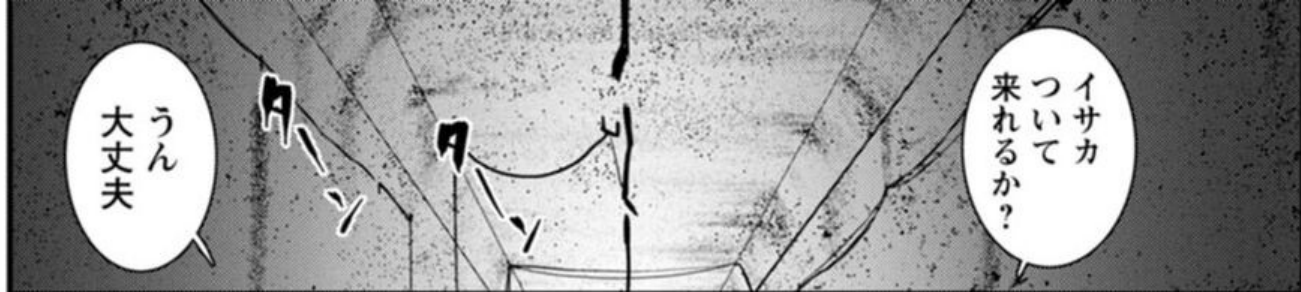
はあ……  
はあ……

綾……

誉……

ありがとう

私が女だと思  
い出されて  
くれて……



うん  
大丈夫

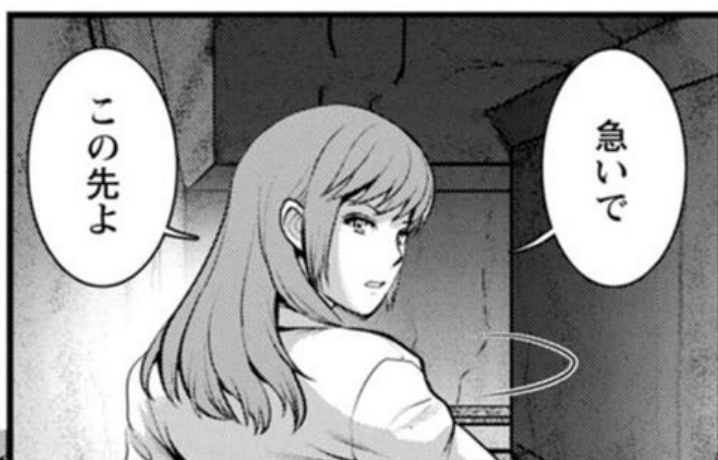
イサカ  
ついて  
来れるか？



誉の家は  
富嶽の黒服…

公園はカルトが  
押さえているなら…

他の道を  
行くしかない  
わね……



この先よ

急いで



他に  
あるのか？

ええ…  
いくつか

私が買い物の  
時に使ってる  
通路…あと…



お前たちは  
向こうを

私は  
この辺を  
巡回する

はい

くっ…  
もうこんな  
所まで…

この  
ルートは  
ダメね…

こっちよ

急いで！

危険な  
ルート  
だけど…

そこを  
通るしか  
ないわ

足元に  
気をつける  
イサカ

うん…

はあ…  
はあ…

ここは？

地下10m  
ぐらいよ







そこまでだ

ギャッ

ずいぶん  
探したよ

やれやれ…

イサカ

渡りなさい  
イサカ

あ…綾！

行きなさい！

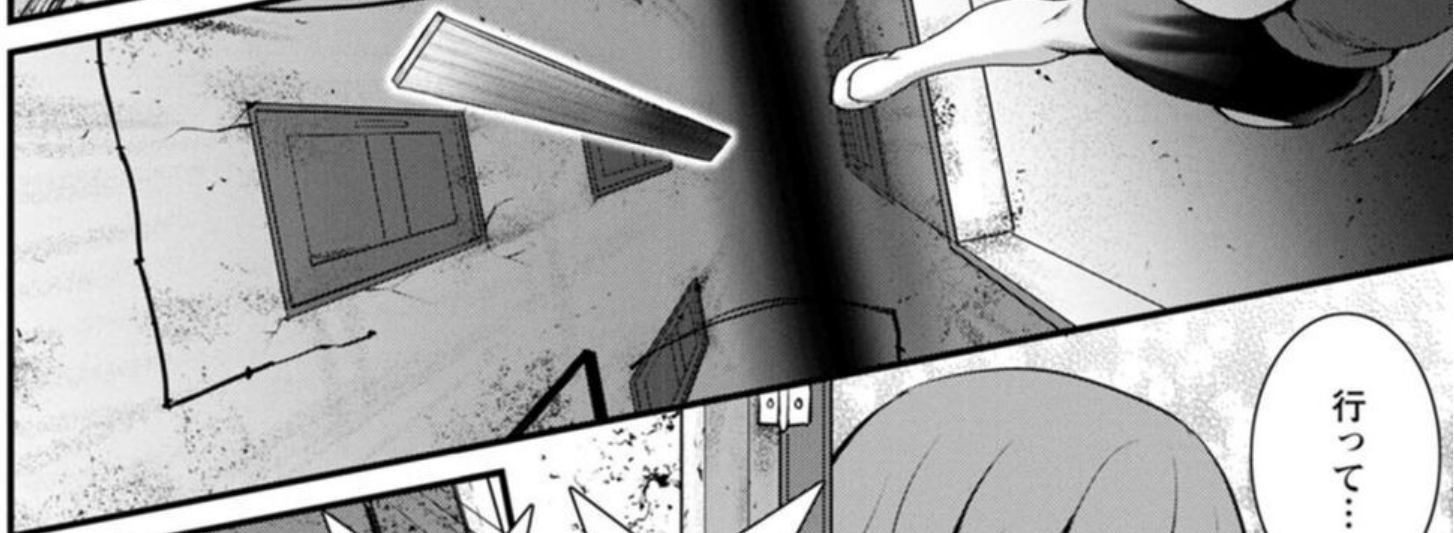
その男  
イサカを  
戻せ

この女が  
どうなっても  
いいのか？

ど…  
どうする  
気だ！

ギャッ





行って…



なっ…  
何を…

綾!

まだ  
私には…

やらなければ  
ならない事が  
あるの…



ふん…  
面倒なことを  
してくれる…

まあいい

向こうにも  
部下を回して  
ある…



しかし…

医者に  
匿<sup>かくま</sup>われて  
いたとはな…

…あなたは

イサカの  
秘密を  
知って

どうする  
つもり？



…やはり  
知って  
いるのか…

それなら  
わかるだろう？

永遠の命を  
得るためだよ



…ふっ

所詮  
あなたも

何も  
わかつちや  
いないわ…

…何？











私は  
30年前

恩師の  
井出光先生に  
呼び出されて…

す…  
すまな  
かった

すまな  
かった  
明和…



わ…私は

私は…

なんと  
いうこと  
を…



お前  
わしの姪を  
嫁にとれ

だがわしは  
身内しか  
信用せん  
たちでな…

貴様は  
見どころが  
ある

…例の  
記者の始末  
ご苦労だった



先生の命じるまま  
悪事に手を染め…  
弱みを握られ…

政治家として  
後ろ盾が必要  
だった私は…

命令に従う他  
なかったんだ…



あ…ありが  
とうござい  
ます…  
ですが…

私には  
家族がもう…

わしに従うか  
全てを失うか

好きな方を  
選べ

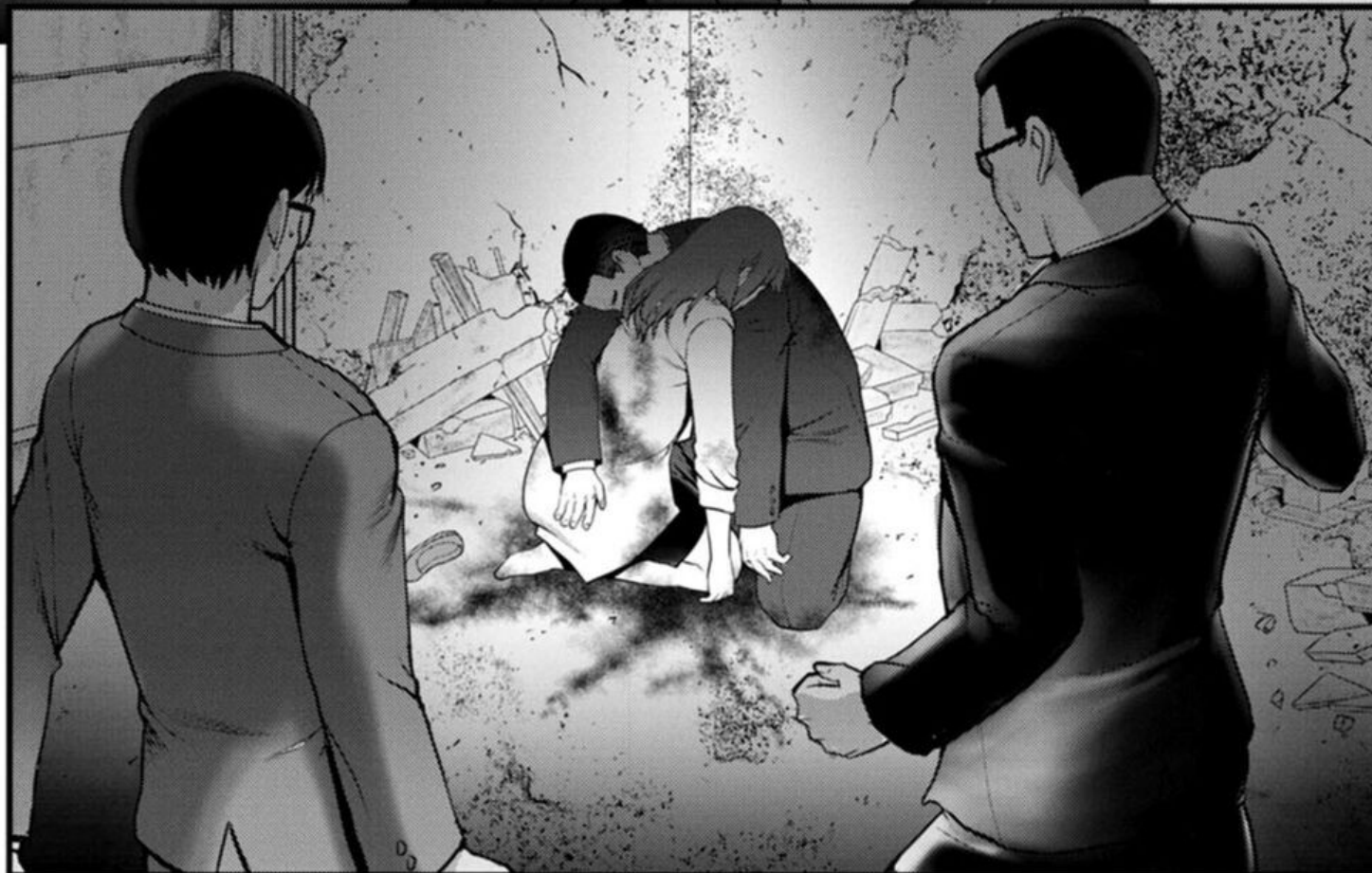
お前の事情など  
聞いておらぬ





終わりに  
しましょう…

父…さん…



逃げるんだ

逃げるんだ

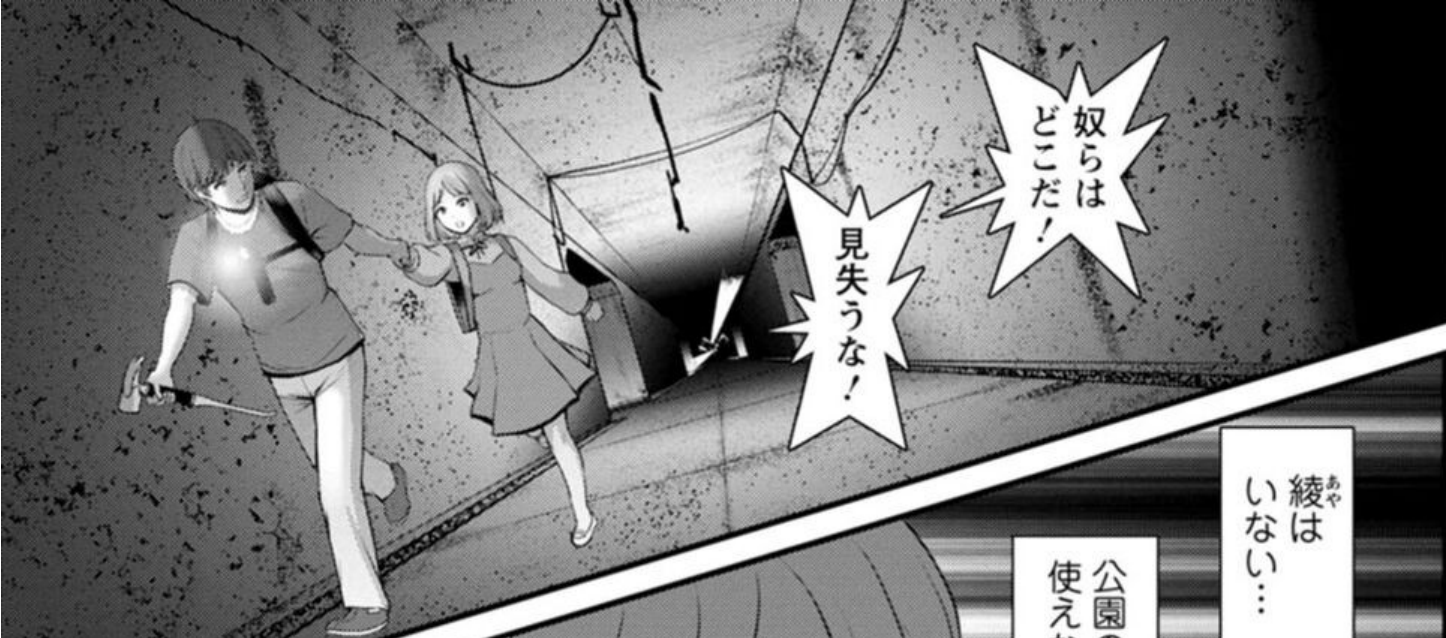
イサカと  
一緒に

どこだ！  
向こうだ！  
追え！

ううっ…  
綾っ…

くそっ…  
くそっ…

第17話 END



奴らは  
どこだ！

見失うな！

あや  
綾は  
いない…

公園の出口も  
使えない…

なら…

地下鉄の  
線路に出る  
しかない！



あつた  
この先だ！

危険だが  
行くしかない



さあ！

イサカ  
頑張れ！

はあ…  
はあ…

はあ…  
はあ…

はあ…  
はあ…







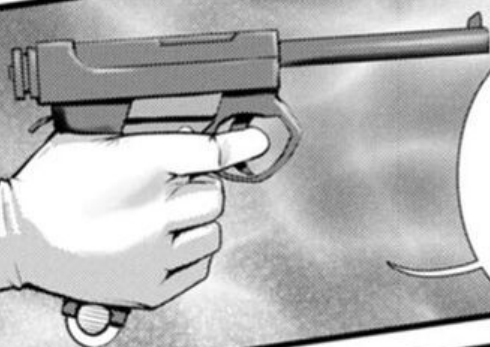
ほ……  
警……

警……  
警……

ふむ……  
まだ使える  
ものだな

女を  
確保しろ

は……はあ  
しかし……



なぜそこまで  
この女を……?

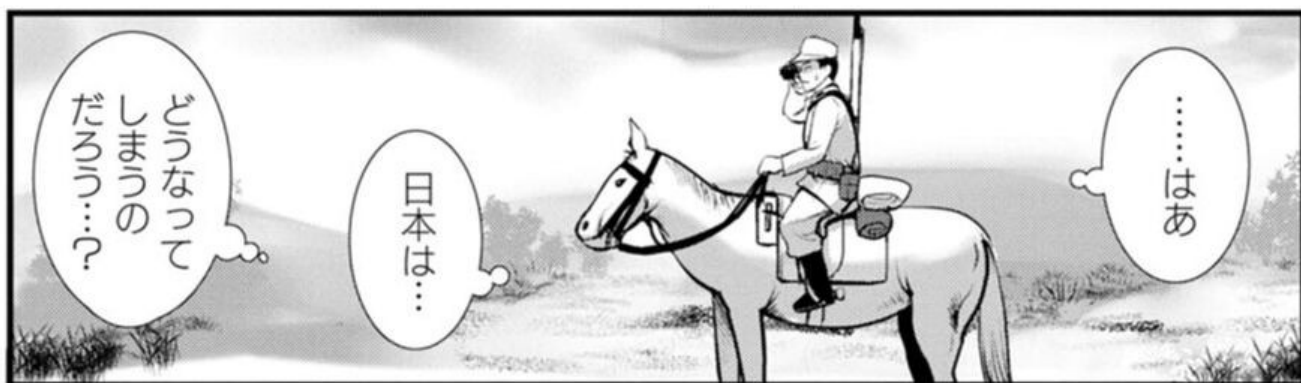
お前には  
言って  
なかったか

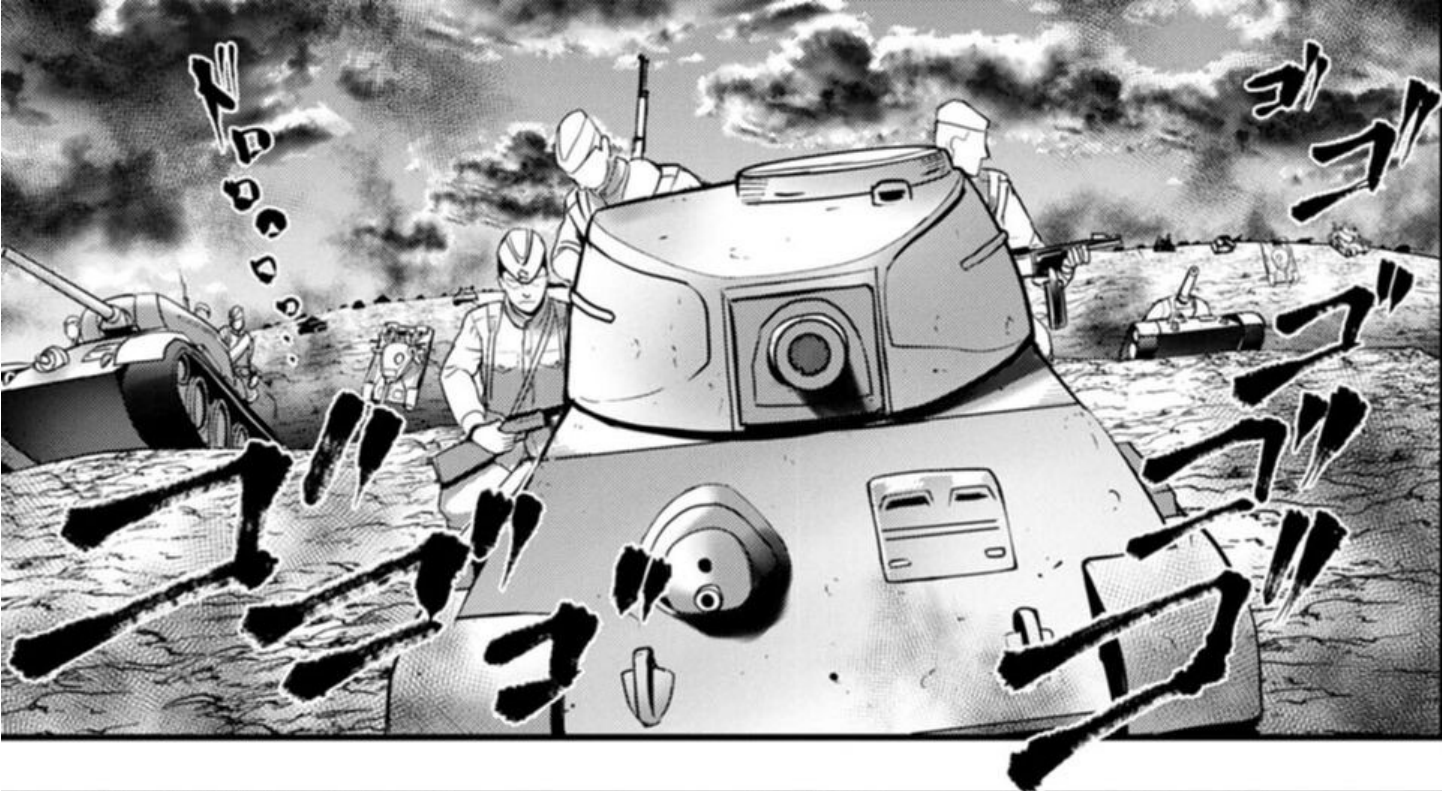
この女が  
「永遠の肉叢」  
だよ













……  
あなたは  
まだ……

哀れね……

やっぱり  
あなたは……

何も  
わかつちや  
いないわ……

黙れえ！  
お前も……

何百年も  
昔の……

古い迷信を  
信じているの？

今すぐ  
伊坂の元に  
送ってやる  
わああ！



誉！

ま……まだ  
死んじゃ  
いないぞ……

間抜けめ





おっ…  
お前…

かっ…  
か…

上村アア  
アアア!

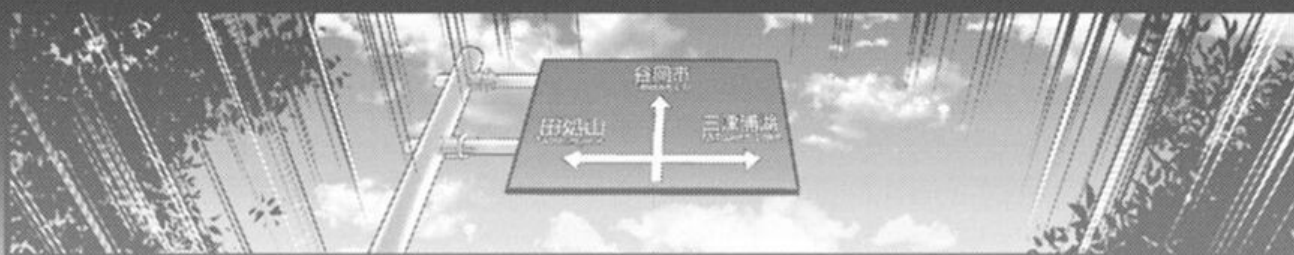
ははっ…  
ひやはは…

師教様が…

いつも  
おっしやって  
いたじゃない  
ですか

世の中には  
「騙す側」と…

「騙される側」  
しかない  
ってね







お気に召しました？

いや〜  
うまいっすよ  
これ

テレビ  
いいかな？  
どうぞ  
では次の  
ニュースです

宗教団体  
「永遠の肉叢」  
元代表  
ゼノスこと

本名 上村  
智也 死刑囚の  
死刑が執行  
されました



ああ…  
終わった  
か…

永田町周辺の  
同時爆破テロで  
27人が亡く  
なった事件の  
首謀者として…

なんか  
関係あるん  
すかそれ？

もど  
もど

…若い頃  
勤めていた  
会社にな…

仲のいい  
飲み友達  
がいたんだ…

そいつはこの団体が  
地下道で起こした  
事件にまきこまれ  
ちまって…

今も  
行方不明の  
ままさ…

…あいつ…

どうして  
いるんだ  
ろうな…































はあ...

月が  
綺麗ね

誉...

ああ  
イサカ...

世の中は  
変わって  
いくのに

はあ...

月は十年経っても  
百年経っても  
変わらない...

ふふっ...





イサカ…

君は…

いつまで  
生きるの  
だろうな…



わからない…

でも…

誉は  
私を救って  
くれた…



だから…

あなたの  
命が尽きる  
その時まで

共に…



【初出】アクションビザッツ 2021年3月号～11月号



## 【著者解説】

生物の体液のみを摂取し  
老化速度が異常に遅い  
特異体質に生まれた  
イサカとその一族

他者に移植できぬ  
イサカの一族の体質を  
不死の秘密と思い込む  
人間達の欲望が古く  
中世の時代から悲劇を  
招き続けていた

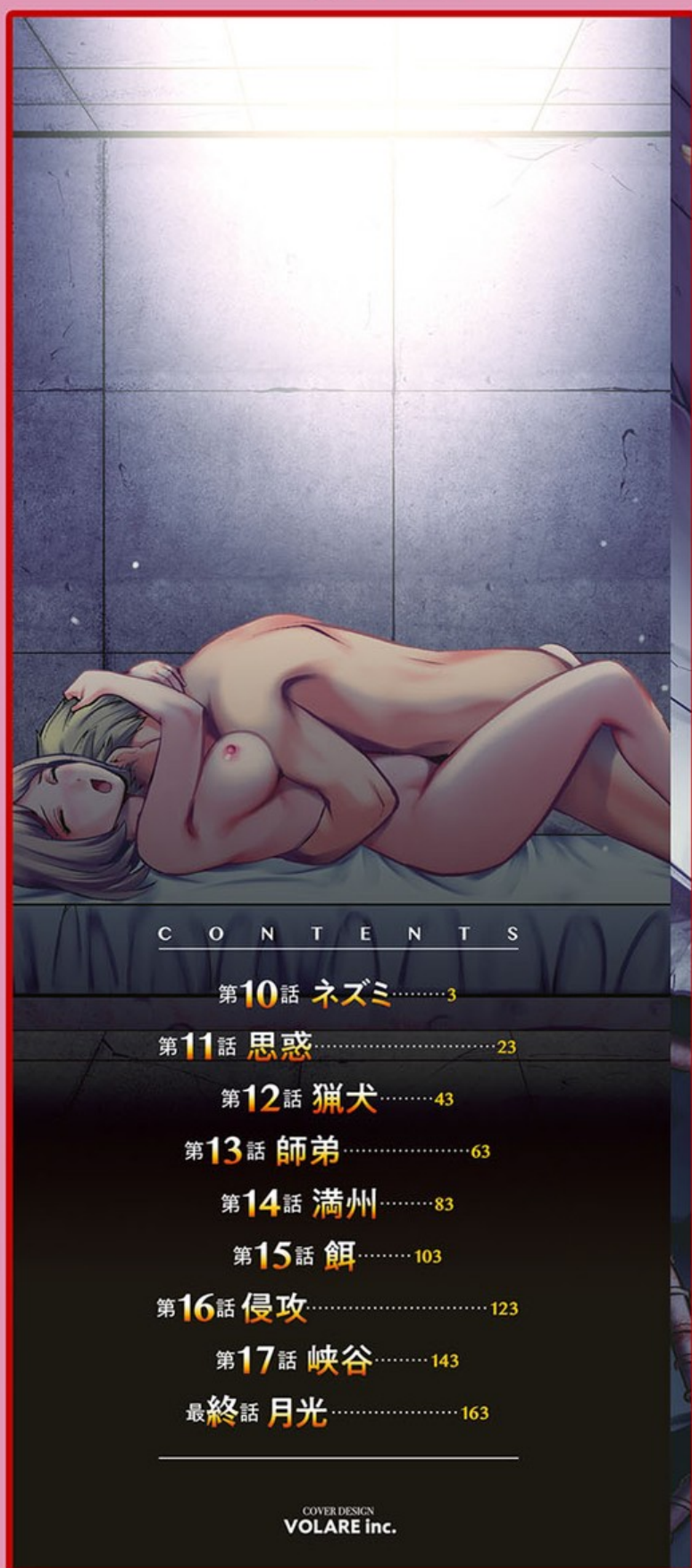
その悲劇の結末は  
三人の命を贖いに  
終止符を打つ







## カバー折返し・1



## カバー・表





## カバー・裏＋背表紙



## カバー折返し・2





## 表紙・表



## 表紙・裏







エンジェルコミックス

ち か さんじゅうメートル ひ こと  
**地下30mの秘め事に…**

ち か さんじゅうメートル みつげつ  
地下30mの望月を…②

2021年12月16日 第1刷発行

さい が どう  
著者◎●彩画堂

発行者◎●庄盛克也

印刷所◎●凸版印刷株式会社

発行所◎●株式会社エンジェル出版

〒162-0813 東京都新宿区東五軒町3-28

[営業]03-5261-4860

[編集]03-5261-4846

装幀◎●VOLARE inc.

装画◎●彩画堂

編集協力◎●RPGカンパニー2

落丁・乱丁の場合は本社にてお取り替えいたします。

●定価はカバーに表示してあります。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製・転載は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反です。

©Saigado 2021 Printed in Japan.

ISBN978-4-87306-976-0 C9979

◆この作品はフィクションです。登場人物・団体等はすべて実在のものとは関係ありません。